

取扱説明書

DuraVision® FDF2306W

カラー液晶モニター

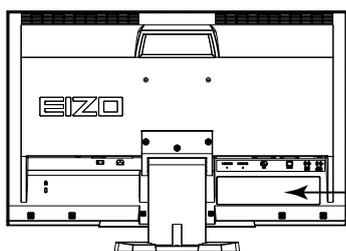
重要

ご使用前には必ず使用上の注意、この取扱説明書およびセットアップガイドをよくお読みになり、正しくお使いください。

- コンピュータなど、外部機器との接続から使いはじめるまでの基本説明についてはセットアップガイドを参照してください。
- 最新の取扱説明書は、当社のWebサイトからダウンロードできます。
<http://www.eizo.co.jp>



警告表示位置



WARNING

RISK OF ELECTRIC SHOCK. DO NOT OPEN.

AVERTISSEMENT

RISQUE DE CHOC ELECTRIQUE. NE PAS OUVRIR.

WARNUNG

GEFAHR DES ELEKTRESCHEN SCHLAGES. RÜCKWAND NICHT ENTFERNEN.

警告

触电危険、請勿打开后盖。

警告

感電の恐れあり、カバーをあけないでください。

The equipment must be connected to a grounded main outlet.

L'appareil doit être relié à une prise avec terre.

Jordet stikkontakt skal benyttes når apparatet tilkobles datanett.

Apparaten skall anslutas till jordat nätuttag.

设备必须连接到接地式的电源插座。

電源コードのアースは必ず接地してください。

製品の仕様は販売地域により異なります。お買い求めの地域に合った言語の取扱説明書をご確認ください。

- 1.本書の著作権はEIZO株式会社に帰属します。本書の一部あるいは全部をEIZO株式会社からの事前の許諾を得ることなく転載することは固くお断りします。
- 2.本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
- 3.本書の内容については、万全を期して作成しましたが、万一誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- 4.本機の使用を理由とする損害、逸失利益などの請求につきましては、上記にかかわらず、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

モニターについて

この製品は、監視カメラ画像表示用途に適しています。

この製品は、日本国内専用品です。日本国外での使用に関して、当社は一切責任を負いかねます。
This product is designed for use in Japan only and cannot be used in any other countries.

本書に記載されている用途以外での使用は、保証外となる場合があります。

本書に定められている仕様は、付属の電源コードおよび当社が指定する信号ケーブル使用時にのみ適用いたします。

この製品には、当社オプション品または当社が指定する製品をお使いください。

ラッカー系の塗料を使用した机にこの製品を置くと、スタンドの底面に使用しているゴムの成分により、色が付着する場合があります。ご使用前にご確認ください。

製品内部の電気部品の動作が安定するのに、約30分かかります。モニターの調整は電源を入れて30分以上経過するまでお待ちください。

経年使用による輝度変化を抑え、安定した輝度を保つためには、ブライトネスを下げてくださいをお勧めします。

同じ画像を長時間表示することによって、表示を変えたときに前の画像が残像として見えることがあります。長時間同じ画像を表示するようなときには、コンピュータのスクリーンセーバーまたはパワーセーブ機能を使用してください。

この製品を美しく保ち、長くお使いいただくためにも定期的にクリーニングをおこなうことをお勧めします（「[クリーニングの仕方](#)」（P.4）参照）。

液晶パネルは、非常に精密度の高い技術で作られていますが、画素欠けや常時点灯する画素が見える場合がありますので、あらかじめご了承ください。また、有効ドット数の割合は99.9994%以上です。

液晶パネルに使用されるバックライトには寿命があります。画面が暗くなったり、ちらついたり、点灯しなくなったときには、販売店またはEIZOサポートにお問い合わせください。

パネル面やパネルの外枠は強く押さないでください。強く押すと、干渉縞が発生するなど表示異常を起こすことがありますので取り扱いにご注意ください。また、パネル面に圧力を加えたままにしておきますと、液晶の劣化や、パネルの破損などにつながる恐れがあります。（液晶パネルを押した跡が残った場合、画面全体に白い画像または黒い画像を表示すると解消されることがあります。）

パネルを固い物や先のとがった物などで押したり、こすったりしないようにしてください。傷が付く恐れがあります。なお、ティッシュペーパーなどで強くこすっても傷が入りますのでご注意ください。

この製品を冷え切った状態のまま室内に持ち込んだり、急に室温を上げたりすると、製品の表面や内部に露が生じることがあります（結露）。結露が生じた場合は、結露がなくなるまで製品の電源を入れずにお待ちください。そのまま使用すると故障の原因となることがあります。

クリーニングの仕方

注意点

- アルコール、消毒薬などの薬品は、キャビネットやパネル面の光沢の変化、変色、色あせ、画質の劣化などにつながる恐れがあります。
- シンナー、ベンジン、ワックス、研磨クリーナーは、キャビネットやパネル面をいためるため絶対に使用しないでください。

参考

- キャビネットやパネル面のクリーニングにはScreenCleaner（オプション品）をご利用いただくことをお勧めします。

キャビネットやパネル面の汚れは、やわらかい布に少量の水をしめらせて、やさしくふき取ってください。

モニターを快適にご使用いただくために

- 画面が暗すぎたり、明るすぎたりすると目に悪影響をおよぼすことがあります。状況に応じてモニター画面の明るさを調整してください。
- 長時間モニター画面を見続けると目が疲れますので、1時間に約10分の休憩を取ってください。

目次

モニターについて.....	3	● アナログ信号 (D-Sub) /デジタル信号 (DVI-D、HDMI : PC信号) 入力時.....	26
クリーニングの仕方.....	4	● デジタル信号 (HDMI : ビデオ信号) 入力時... 27	
モニターを快適にご使用いただくために.....	4	第3章 モニターを設定する.....	28
目次.....	5	3-1. 音量を調整する.....	28
第1章 はじめに.....	7	● 音量を調整する.....	28
1-1. 特長.....	7	● 音を消す.....	28
1-2. 各部の名称と機能.....	8	3-2. HDMI信号入力時の音源を切り替える.....	29
● リモコンについて.....	9	3-3. 音声のレベルを調整する.....	29
1-3. EIZO LCDユーティリティディスクについて... 10		3-4. DDC/CI通信の有効/無効を設定する.....	29
● ディスクの内容と概要.....	10	3-5. 操作ボタンをロックする.....	30
1-4. 基本操作と機能一覧.....	11	3-6. EIZOロゴを表示/非表示にする.....	30
● 設定メニューの基本操作方法.....	11	3-7. 表示言語を設定する.....	30
● 機能一覧.....	12	3-8. 視聴角度を切り替える.....	31
第2章 画面を調整する.....	13	3-9. HDMI信号入力時の認証方法を切り替える.....	31
2-1. 対応解像度/対応フォーマット.....	13	3-10. 初期設定に戻す.....	32
● アナログ信号 (D-Sub) 入力時.....	13	● カラー調整値をリセットする.....	32
● デジタル信号 (DVI-D、HDMI : PC信号) 入力時.....	13	● すべての設定内容をリセットする.....	32
● デジタル信号 (HDMI : ビデオ信号) 入力時... 13		第4章 視認性最適化機能について.....	33
2-2. 解像度を設定する.....	14	4-1. 視認性を最適化する.....	33
2-3. カラーを調整する.....	15	● 「視認性最適化」を設定する.....	34
● 表示モード (カラーモード) を選択する.....	15	● 「暗部補正」を設定する.....	34
● 詳細な調整をする.....	16	● 「霧補正」を設定する.....	35
● 各モードの調整項目.....	16	● 「輪郭補正」を設定する.....	35
● ブライトネス (明るさ) を調整する.....	17	● 「ノイズ低減」を設定する.....	36
● 黒の明るさと色を調整する「黒レベル」.....	17	● 設定状態を確認する.....	36
● コントラストを調整する.....	17	第5章 省電力機能について.....	37
● 色の濃さを調整する.....	18	5-1. パワーセーブを設定する.....	37
● 色合いを調整する.....	18	● モニター.....	37
● 色温度を調整する.....	19	● 省電力モード時からの復帰方法を切り替える....	38
● ガンマを調整する.....	19	● 音声出力.....	38
● ゲインを調整する.....	20	5-2. 電源ランプの表示を設定する.....	39
● コントラスト拡張の強調度合いを設定する... 20		5-3. モニターの自動明るさ調整を設定する 「Auto EcoView」.....	39
● オーバードライブを設定する.....	21	5-4. まぶしさを軽減する「EcoView Optimizer」... 39	
2-4. 画面を調整する.....	22	5-5. 省電力の度合いを表示する.....	40
● デジタル信号入力の場合.....	22		
● アナログ信号入力の場合.....	22		
2-5. 画面サイズを切り替える.....	26		

第 6 章 接続する	41
6-1. 複数の外部機器を接続する	41
● 入力信号を切り替える	41
6-2. 外部スピーカーを接続する	42
第 7 章 こんなときは	43
7-1. 画面が表示されない場合	43
7-2. 画面に関する症状 (デジタル・アナログ共通)	44
7-3. 画面に関する症状 (デジタルのみ)	44
7-4. 画面に関する症状 (アナログのみ)	45
7-5. その他の症状	46
第 8 章 ご参考に	47
8-1. オプションアーム取付方法	47
8-2. スタンドベースの取外方法/取付方法	48
8-3. ケーブルホルダーの取付方法/取外方法	50
8-4. モニター情報を表示する	51
8-5. 仕様	52
8-6. プリセットタイミング	55
第 9 章 用語集	56
付録	59
商標	59
ライセンス/著作権	60
VCCI	60
その他規格	60
中国RoHS	61
アフターサービス	62

第1章 はじめに

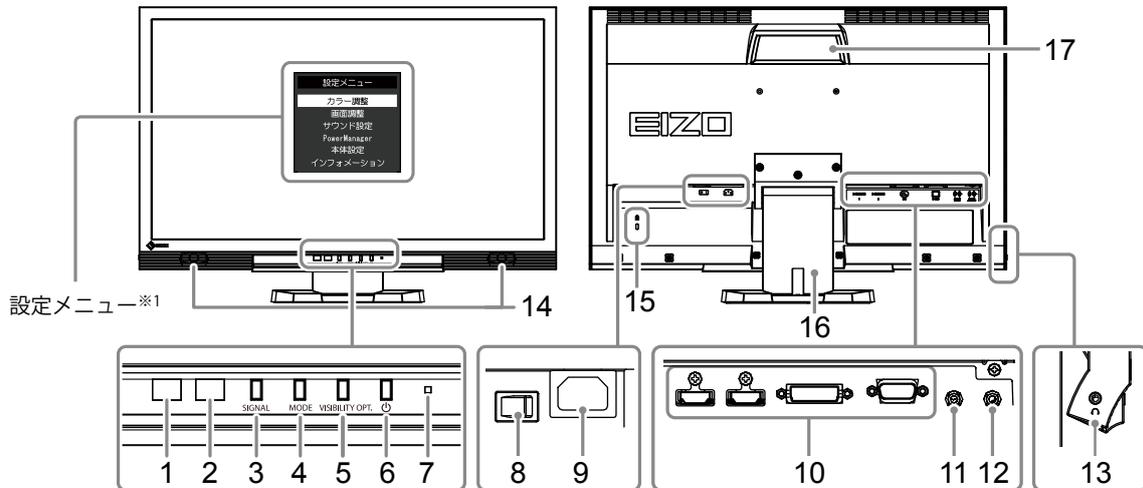
このたびは当社カラー液晶モニターをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

1-1. 特長

- 23型ワイド画面
- 解像度1920×1080対応
- HDMIコネクタ（×2）を搭載
- カラーモード機能を搭載し、監視カメラの撮影映像に適した表示モードを用意
「表示モード（カラーモード）を選択する」（P.15）参照
- EIZO独自の「視認性最適化 (Visibility Optimizer)」技術を搭載
 - 暗部補正機能
画像を分析し明るさを補正することで、暗くて見えにくい部分を見やすくすることができます。
暗い部分が見えにくい映像や、明るい環境でモニターを使用するときなどに利用すると効果的です。
 - 霧補正機能
霧などの影響で不鮮明に見える画像に対して、明るさや色を補正して視認性を改善します。
また「自動霧検出」機能を使うと、画像の霧濃度に基づいて「霧補正」の強さを調整できます。
 - 輪郭補正機能
画像の解像感を調整します。ぼやけを改善し、鮮やかでクリアな表示にすることができます。
「輪郭補正」の設定によって生じる肌色や文字色への影響は、「肌検出」「文字検出」で補正することができます。
 - ノイズ低減機能
デジタル画像の圧縮をおこなう時に発生する、ブロックノイズを低減します。
「第4章 視認性最適化機能について」（P.33）参照
- リモコンによる簡単操作、各種調整/設定が可能
「1-2. 各部の名称と機能」（P.8）参照
- VESA規格対応の取付穴を搭載
壁掛け設置にも対応しています。
- Up View機能
画面を下から見るような場合に、視聴角度を調整し正面からの見え方に近づけます。
「3-8. 視聴角度を切り替える」（P.31）参照
- HDCP（著作権保護技術）により保護されたコンテンツを表示可能
- 24時間連続使用で2年間の長期保証

1-2. 各部の名称と機能

モニター本体

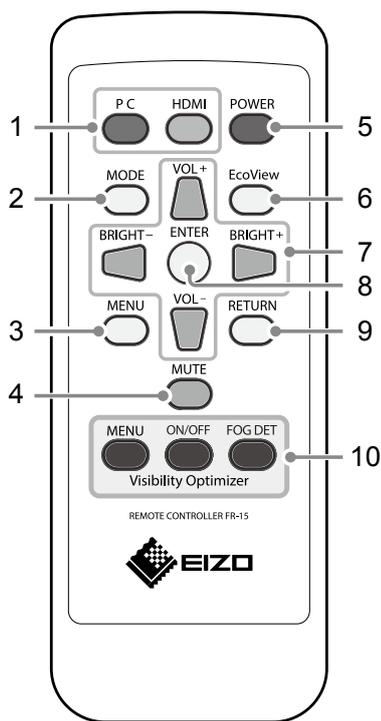


1. Auto EcoView センサー	周囲の明るさを検知します (Auto EcoView (オートエコビュー) 機能 (P.39)、EcoView Optimizer (エコビューオプティマイザー) (P.39) 機能)。
2. リモコン受光部	リモコンからの信号を受信します。
3. SIGNAL ボタン	表示する入力信号を切り替えます (P.41)。 PC1 (DVI) → PC2 (D-SUB) → HDMI1 → HDMI2
4. MODE ボタン	カラーモードを切り替えます。
5. VISIBILITY OPT. ボタン	「視認性最適化」のオン/オフを切り替えます。
6. 電源ボタン	電源のオン/オフを切り替えます。
7. 電源ランプ	モニターの動作状態を表します。 青 : 画面表示 橙 : 省電力モード 赤 : 電源オフ 消灯 : 主電源オフ
8. 主電源スイッチ	主電源のオン/オフを切り替えます。
9. 電源コネクタ	電源コードを接続します。
10. 信号入力コネクタ	背面の左から順に、次の入力コネクタがあります。 ・ HDMIコネクタ×2 (HDMI1、HDMI2) ・ DVI-Dコネクタ ・ D-Sub15ピン (ミニ) コネクタ
11. ライン入力コネクタ	コンピュータなどの外部機器を接続します。(ステレオミニジャック)
12. ライン出力コネクタ	アンプ内蔵のスピーカーを接続します (P.42)。(ステレオミニジャック)
13. ヘッドホンジャック	ヘッドホンを接続します。
14. スピーカー	音声を再生します。
15. 盗難防止用ロック	Kensington社製のMicroSaverセキュリティシステムに対応しています。
16. スタンド※2	高さや角度(チルト、スウィーベル)が調整できます。
17. ハンドル	運搬用のハンドルです。 注意 ・ 運搬時にはハンドルと画面の下部をしっかりと持ち、モニターを落とさないようご注意ください。

※1 使用方法は、「設定メニューの基本操作方法」(P.11)を参照してください。

※2 この製品はスタンド部分を取り外すことによって、オプションアーム(またはオプションスタンド)に取り付けることが可能になります(「8-1. オプションアーム取付方法」(P.47)参照)。

リモコン

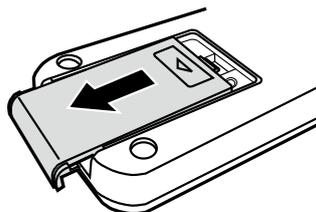


1. PC/HDMI	表示する入力信号を切り替えます。	
	PC	PC1 (DVI) ↔ PC2 (D-SUB)
	HDMI	HDMI1 ↔ HDMI2
2. MODE	カラーモードを切り替えます。	
3. MENU	設定メニューを表示/終了します。	
4. MUTE	音声を一時的に消します。	
5. POWER	電源のオン/オフを切り替えます。	
6. EcoView	「EcoViewメニュー」を表示/終了します。	
7.	設定メニューの選択や、機能の調整または設定をします。	
		ブライトネス（明るさ）調整画面を表示します（P.17）。
		音量を調整します（P.28）。
8. ENTER	各メニューの調整項目を決定したり、調整結果を保存します。	
9. RETURN	メニュー操作時、メニューを一つ前の画面に戻します。	
10. Visibility Optimizer	視認性最適化機能の設定をします（P.34）。	
	MENU	「視認性最適化」メニューを表示/終了します。
	ON/OFF	「視認性最適化」のオン/オフを切り替えます。
	FOG DET	「自動霧検出」のオン/オフを切り替えます。

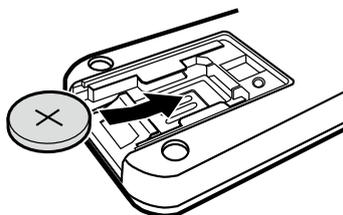
● リモコンについて

電池の入れ方

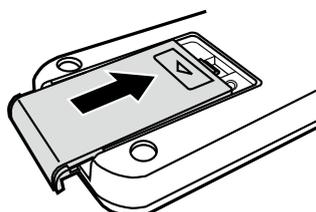
1. リモコンの底面を上にし、矢印の方向にスライドさせ、カバーを取り外します。



2. 「+（プラス）」側を上にして、電池を入れます。（電池型番：CR2025）

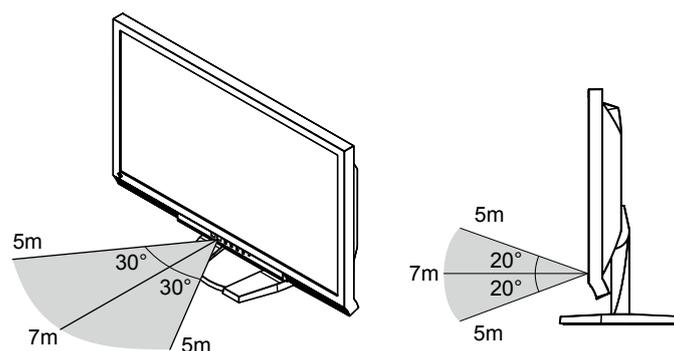


3. カバーを元に戻します。



リモコン受信範囲

リモコンは図の範囲から操作してください。



1-3. EIZO LCDユーティリティディスクについて

この製品には「EIZO LCD ユーティリティディスク」(CD-ROM)が付属しています。ディスクの内容やソフトウェアの概要は次のとおりです。

● ディスクの内容と概要

ディスクには、調整用のソフトウェア、取扱説明書が含まれています。各項目の起動方法や参照方法はディスク内のReadmeja.txtを参照してください。

内容	概要	Windows	Macintosh
画面調整パターン集	アナログ信号入力の画面を手動で調整する際に役立つパターン集です。	○	○
モニターの取扱説明書 (PDFファイル)		○	○
Readmeja.txtファイル		○	○

1-4. 基本操作と機能一覧

● 設定メニューの基本操作方法

1. 設定メニューの表示

1. リモコンのMENUを押し、設定メニューを表示します。



2. 調整/設定

1.  または  で、調整/設定したいメニューを選択し、ENTERを押します。サブメニューが表示されます。



2.  または  で、調整/設定したい項目を選択し、ENTERを押します。調整/設定メニューが表示されます。



3. , , ,  で、調整/設定し、ENTERを押して確定します。

3. 終了

1. MENUを押します。

参考

- ・リモコンのRETURNを押すと、一つ前のメニュー画面に戻ります。

● 機能一覧

設定メニューおよび各メニューの設定項目の一覧表です。

メインメニュー	項目	参照先	
カラー調整 ^{※1}	カラーモード	「2-3. カラーを調整する」 (P.15) (「視認性最適化」については、「第4章 視認性最適化機能について」(P.33)を参照してください。)	
	ブライトネス		
	黒レベル		
	コントラスト		
	色の濃さ		
	色合い		
	色温度		
	詳細設定		ガンマ
			ゲイン
			コントラスト拡張
視認性最適化			
	オーバードライブ		
	カラーリセット	「3-10. 初期設定に戻す」 (P.32)	
画面調整	自動画面調整 ^{※2}	「2-4. 画面を調整する」 (P.22)	
	自動レンジ調整 ^{※2}		
	クロック ^{※2}		
	フェーズ ^{※2}		
	ポジション ^{※2}		
	カラースペース ^{※3}		
	スムージング		
	画面サイズ	「2-5. 画面サイズを切り替える」 (P.26)	
サウンド設定	音源 ^{※3}	「3-2. HDMI信号入力時の音源を切り替える」 (P.29)	
	音声レベル	「3-3. 音声のレベルを調整する」 (P.29)	
	パワーセーブ	「5-1. パワーセーブを設定する」 (P.37)	
PowerManager	パワーセーブ		
本体設定	DDC/CI	「3-4. DDC/CI通信の有効/無効を設定する」 (P.29)	
	操作ロック	「3-5. 操作ボタンをロックする」 (P.30)	
	起動ロゴ	「3-6. EIZOロゴを表示/非表示にする」 (P.30)	
	電源ランプ	「5-2. 電源ランプの表示を設定する」 (P.39)	
	言語選択	「3-7. 表示言語を設定する」 (P.30)	
	Up View	「3-8. 視聴角度を切り替える」 (P.31)	
	リセット	「3-10. 初期設定に戻す」 (P.32)	
インフォメーション		「8-4. モニター情報を表示する」 (P.51)	

※1 「カラー調整」で調整/設定できる機能はモードにより異なります（「各モードの調整項目」 (P.16) 参照）。

※2 アナログ信号入力の場合に調整できます。

※3 HDMI信号入力の場合に設定できます。

第2章 画面を調整する

2-1. 対応解像度/対応フォーマット

この製品は次の解像度/フォーマットに対応しています。

● アナログ信号 (D-Sub) 入力時

解像度	垂直走査周波数
640×480	～75 Hz
720×400	70 Hz
800×600	～75 Hz
1024×768	～75 Hz
1280×720	60 Hz
1280×960	60 Hz
1280×1024	～75 Hz
1680×1050	60 Hz
1920×1080 ^{※1}	60 Hz

※1 推奨解像度です。

● デジタル信号 (DVI-D、HDMI：PC信号) 入力時

解像度	垂直走査周波数
640×480	60 Hz
720×400	70 Hz
800×600	60 Hz
1024×768	60 Hz
1280×720	60 Hz
1280×960	60 Hz
1280×1024	60 Hz
1680×1050	60 Hz
1920×1080 ^{※1}	60 Hz

※1 推奨解像度です。

● デジタル信号 (HDMI：ビデオ信号) 入力時

フォーマット	垂直走査周波数	
	50 Hz	60 Hz
VGA	—	○
480p	—	○
480i	—	○
576p	○	—
576i	○	—
720p	○	○
1080p	○	○
1080i	○	○

2-2. 解像度を設定する

モニターをコンピュータに接続したときに適切な解像度で表示されない場合、または解像度を変更したい場合は、次の手順で解像度を変更します。

Windows 8.1 / Windows 8 / Windows 7の場合

1. Windows 8.1 / Windows 8の場合、スタート画面から「デスクトップ」のタイルをクリックして、デスクトップを表示します。
2. デスクトップ上のアイコンがない場所で、マウスの右ボタンをクリックします。
3. 表示されるメニューから「画面の解像度」をクリックします。
4. 「画面の解像度」ダイアログボックスで、モニターを選択します。
5. 「解像度」をクリックして変更したい解像度を選択します。
6. 選択したら、[OK] ボタンをクリックします。
7. 確認のダイアログボックスが表示されるので、[変更を維持する] ボタンをクリックします。

Windows Vistaの場合

1. デスクトップ上のアイコンがない場所で、マウスの右ボタンをクリックします。
2. 表示されるメニューから「個人設定」をクリックします。
3. 「個人設定」ウィンドウで「画面の設定」をクリックします。
4. 「画面の設定」ダイアログボックスで「モニタ」タブを選択し、「解像度」の欄から変更したい解像度を選択します。
5. 選択したら、[OK] ボタンをクリックします。
6. 確認のダイアログボックスが表示されるので、[はい] ボタンをクリックします。

Mac OS Xの場合

1. アップルメニューの「システム環境設定」をクリックします。
2. 「システム環境設定」ダイアログボックスが表示されるので、「ハードウェア」欄の「ディスプレイ」をクリックします。
3. 表示されたダイアログボックスで「ディスプレイ」タブを選択し、「解像度」の欄から変更したい解像度を選択します。
4. 選択したらすぐに画面が変更されるので、適切な解像度に設定したらウィンドウを閉じます。

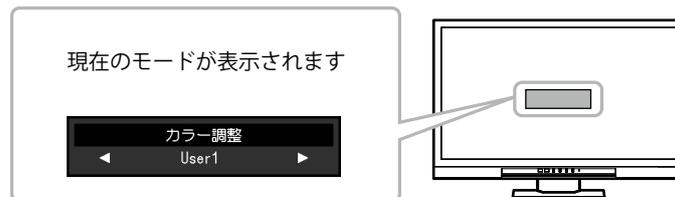
2-3. カラーを調整する

● 表示モード（カラーモード）を選択する

モニターの用途に応じた表示モードに簡単に切り替えることができます。

モードの種類

モード	目的
User1	好みに応じた設定をおこなう際に選択します。
User2	
sRGB	sRGB対応の周辺機器と色を合わせる場合に適しています。



設定方法

1. リモコンの MODE を押します。
モード名が画面中央に表示されます。
2. MODE を押すたびにモードが順に切り替わり表示されます。
モードメニュー表示中は、◀ または ▶ でモードを切り替えることもできます。

→User1←→User2←→sRGB←

参考

- 設定メニューとモードメニューを同時に表示させることはできません。

● 詳細な調整をする

設定メニューの「カラー調整」で、モードごとに独立したカラー調整の設定、保存ができます。

注意点

- ・製品内部の電気部品の動作が安定するのに、約30分かかります。モニターの調整は電源を入れて30分以上経過するまでお待ちください。
- ・アナログ信号のカラー調整をおこなうときは、最初にレンジ調整をおこなってください（「色階調を自動調整する」(P.25) 参照）。
- ・モニターにはそれぞれ個体差があるため、複数台を並べると同じ画像でも異なる色に見える場合があります。複数台の色を合わせるときは、視覚的に判断しながら微調整してください。

● 各モードの調整項目

モードの種類により、調整できる機能が異なります。（調整/設定できない機能は選択できません。）

各機能の設定方法については、次のページ以降を参照してください。

（「視認性最適化」については「第4章 視認性最適化機能について」(P.33) を参照してください。）

○：調整可 —：調整不可

機能名		カラーモード			
		User1 / User2	sRGB		
ブライツネス		○	○		
黒レベル		○	—		
コントラスト		○	—		
色の濃さ		○	—		
色合い		○	—		
色温度		○	—		
詳細設定	ガンマ	○	—		
	ゲイン	○	—		
	コントラスト拡張	○	—		
	視認性最適化	暗部補正	○	—	
		霧補正	○	—	
		輪郭補正	肌検出	○	—
			文字検出 ^{※1}	○	—
	ノイズ低減	○	—		
オーバードライブ	○	—			
カラーリセット		○	○		

※1 アナログ信号（D-sub）入力の場合、文字検出の調整はできません。

● ブライツネス（明るさ）を調整する

バックライト（液晶パネル背面の光源）の明るさを変化させて、画面の明るさを調整します。

設定範囲

0～100

設定方法

1.  または  を押します。
ブライツネスメニューが表示されます。
2.  または  で設定します。
3. 設定が完了したら ENTER を押します。

参考

- ・ブライツネスが100でも暗いと感じた場合はコントラスト調整をおこなってください。
 - ・設定メニューの「カラー調整」－「ブライツネス」で調整することもできます。
-

● 黒の明るさと色を調整する「黒レベル」

赤、緑、青のそれぞれの黒レベルを調整することにより、黒の明るさ、色度を調整します。黒いテストパターンまたは背景を表示して黒レベルを調整してください。

設定範囲

0～100

設定方法

1. 設定メニューの「カラー調整」を選択し、ENTER を押します。
2. 「カラー調整」で「黒レベル」を選択し、ENTER を押します。
「黒レベル」が表示されます。
3.  または  で設定します。
4. 設定が完了したら ENTER を押します。

参考

- ・黒レベル調整後は、必要に応じてコントラストを再調整してください。
-

● コントラストを調整する

ビデオ信号のレベルを変化させて、画面の明るさを調整します。

設定範囲

0～100

設定方法

1. 設定メニューの「カラー調整」を選択し、ENTER を押します。
2. 「カラー調整」で「コントラスト」を選択し、ENTER を押します。
「コントラスト」が表示されます。
3.  または  で設定します。
4. 設定が完了したら ENTER を押します。

参考

- ・50ですべての色階調を表示します（PC信号入力のみ）。
 - ・画面の明るさは、初めに、階調特性を損なうことのないブライツネスで調整することをお勧めします。
 - ・コントラスト調整は次のような場合に使用してください。
- ブライツネスが100でも画面が暗いと感じたとき。（コントラストを50以上に設定します。）
-

●色の濃さを調整する

色の濃さを調整します。

設定範囲

-50～50

設定方法

1. 設定メニューの「カラー調整」を選択し、ENTERを押します。
2. 「カラー調整」で「色の濃さ」を選択し、ENTERを押します。
「色の濃さ」が表示されます。
3. ◀ または ▶ で設定します。
4. 設定が完了したらENTERを押します。

注意点

- ・この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。

参考

- ・最小値 (-50) で白黒の画面となります。
-

●色合いを調整する

色合いを調整します。

設定範囲

-50～50

設定方法

1. 設定メニューの「カラー調整」を選択し、ENTERを押します。
2. 「カラー調整」で「色合い」を選択し、ENTERを押します。
「色合い」が表示されます。
3. ◀ または ▶ で設定します。
4. 設定が完了したらENTERを押します。

注意点

- ・この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。
-

● 色温度を調整する

色温度を調整します。

通常「白」または「黒」の色合いを数値的に表現するときに用いられるもので、K：Kelvin（ケルビン）という単位で表します。

炎の温度と同様に、画面は色温度が低いと赤っぽく表示され、高いと青っぽく表示されます。また、色温度の設定値ごとにゲインのプリセット値が設定されています。

設定範囲

オフ、4000K～10000K（500K単位、9300K含む）

設定方法

1. 設定メニューの「カラー調整」を選択し、ENTERを押します。
2. 「カラー調整」で「色温度」を選択し、ENTERを押します。
「色温度」が表示されます。
3. ◀ または ▶ で設定します。
4. 設定が完了したら ENTER を押します。

参考

- ・「K」表示は調整の目安としてご利用ください。
 - ・「ゲイン」でさらに詳細な調整が可能です（「ゲインを調整する」（P.20）参照）。
 - ・「オフ」でパネル本来の色（ゲインの値はRGB各100）になります。
 - ・ゲインの値を変更すると、色温度は「オフ」になります。
-

● ガンマを調整する

ガンマ値を調整します。モニターは入力される信号によって明るさが変化しますが、この変化率は入力信号と単純な比例関係にありません。そのため入力信号と明るさの関係が一定の関係になるよう制御をおこなうことをガンマ補正といいます。

設定範囲

1.8、2.0、2.2、2.4、2.6、2.8、Power

設定方法

1. 設定メニューの「カラー調整」を選択し、ENTERを押します。
2. 「カラー調整」で「詳細設定」を選択し、ENTERを押します。
3. 「詳細設定」で「ガンマ」を選択し、ENTERを押します。
「ガンマ」が表示されます。
4. ◀ または ▶ で設定します。
5. 設定が完了したら ENTER を押します。

参考

- ・「Power」を選択すると中間階調のコントラストを強調したメリハリのある画像になります。
-

● ゲインを調整する

色を構成する赤、緑、青のそれぞれの明るさをゲインと呼びます。これを調整することで、「白」の色調を変更することができます。

設定範囲

0~100

設定方法

1. 設定メニューの「カラー調整」を選択し、ENTER を押します。
2. 「カラー調整」で「詳細設定」を選択し、ENTER を押します。
3. 「詳細設定」で「ゲイン」を選択し、ENTER を押します。
「ゲイン」が表示されます。
4. 赤、緑、青それぞれの値を  または  で設定します。
それぞれの「ゲイン」の選択は  または  で選択することができます。
5. 設定が完了したら ENTER を押します。

注意点

- ・この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。

参考

- ・色温度の値に応じてゲインの値が変わります。
 - ・ゲインの値を変更すると、色温度は「オフ」になります。
-

● コントラスト拡張の強調度合いを設定する

画像の明暗やシーンの変化に応じて、コントラストを自動的に調整することができます。その調整の強さを設定します。

設定範囲

強、普通、オフ

設定方法

1. 設定メニューの「カラー調整」を選択し、ENTER を押します。
2. 「カラー調整」で「詳細設定」を選択し、ENTER を押します。
3. 「詳細設定」で「コントラスト拡張」を選択し、ENTER を押します。
「コントラスト拡張」が表示されます。
4.  または  で設定します。
5. 設定が完了したら ENTER を押します。

注意点

- ・この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。
-

● オーバードライブを設定する

動きの速い画像などを表示する場合、オーバードライブを設定すると、残像感を低減することができます。

設定範囲

普通、オフ

設定方法

1. 設定メニューの「カラー調整」を選択し、ENTER を押します。
2. 「カラー調整」で「詳細設定」を選択し、ENTER を押します。
3. 「詳細設定」で「オーバードライブ」を選択し、ENTER を押します。
「オーバードライブ」が表示されます。
4.  または  で設定します。
5. 設定が完了したら ENTER を押します。

2-4. 画面を調整する

● デジタル信号入力の場合

デジタル信号入力の場合は、この製品の設定データに基づいて画面が正しく表示されますが、文字や線がぼやけている場合は、「6. 文字や線のぼやけを直します。」(P.25)にお進みください。
さらに詳細な調整をおこなう場合は「2-3. カラーを調整する」(P.15)以降を参照してください。

● アナログ信号入力の場合

注意点

- ・製品内部の電気部品の動作が安定するのに、約30分かかります。モニターの調整は電源を入れて30分以上経過するまでお待ちください。
- ・解像度800×600 (SVGA) 未満の信号ではセルフアジャスト機能(自動画面調整機能)は働きません。
- ・セルフアジャスト機能/自動画面調整機能は画面の表示可能エリア全体に画像が表示されている場合に正しく動作します。次のような場合には、正しく動作しません。
 - コマンドプロンプトのような画面の一部にしか画像が表示されていない場合
 - 壁紙など背景を黒で使用している場合また、一部のグラフィックスボードで正しく動作しない場合があります。

モニターの画面調整とは、使用するコンピュータに合わせ、画面のちらつきを抑えたり画像の表示位置やサイズを正しく調整するためのものです。

参考

- ・次の場合にセルフアジャスト機能が働きます。
 - モニターに初めて信号を入力した場合、または、これまでに表示したことのない解像度や垂直走査周波数、水平走査周波数に変更した場合

セルフアジャスト実行後も、画面が正確に表示されていない場合は、快適に使用していただくために、次の設定手順に従って画面の調整をしてください。

設定手順

1. 自動調整をします。

- 画面のちらつき、表示位置、サイズを自動調整する

設定方法

1. 設定メニューの「画面調整」を選択し、ENTERを押します。
2. 「画面調整」で「自動画面調整」を選択し、ENTERを押します。
3.  または  で「はい」を選択し、ENTERを押します。
自動調整機能が働き、画面のちらつき、表示位置、サイズが正しく設定されます。

自動調整を実行しても画面が正確に表示されていない場合は次の手順に従って調整をおこなってください。
正確に表示された場合は、「5. 色階調を調整します。」(P.25)にお進みください。

2. アナログ画面調整用のパターンを準備します。

「EIZO LCDユーティリティディスク」をコンピュータにセットし、「画面調整パターン集」を開きます。

参考

- ・「画面調整パターン集」の開き方および内容については、Readmeja.txtファイルを参照してください。

3. アナログ画面調整用のパターンを表示して、再度自動調整をします。

- 画面のちらつき、表示位置、サイズを自動調整する

設定方法

1. 「画面調整パターン集」のパターン1を画面全体に表示します。



2. 設定メニューの「画面調整」を選択し、ENTERを押します。
3. 「画面調整」で「自動画面調整」を選択し、ENTERを押します。
4. ◀または▶で「はい」を選択し、ENTERを押します。

自動調整機能が働き、画面のちらつき、表示位置、サイズが正しく設定されます。

自動調整を実行しても画面が正確に表示されていない場合は次の手順に従って調整をおこなってください。
正確に表示された場合は、「5.色階調を調整します。」(P.25)にお進みください。

4. 設定メニューの「画面調整」で詳細な調整をします。

クロック→フェーズ→ポジションを順に調整します。

- 縦縞を消す

設定方法

1. 「画面調整」で「クロック」を選択し、ENTERを押します。

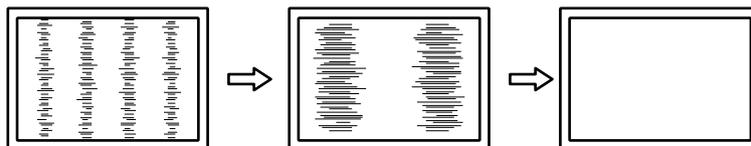
「クロック」が表示されます。

2. ◀または▶で縦縞が消えるように設定します。

設定が合ったポイントを見逃しやすいので◀または▶をゆっくり押して設定するようにしてください。

3. 設定が完了したらENTERを押します。

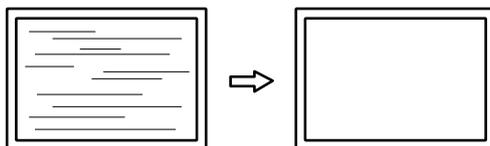
設定後、画面全体ににじみやちらつき、横線が出た場合は次の「ちらつきやにじみをとる」に進み設定をおこなってください。



● ちらつきやにじみをとる

設定方法

1. 「画面調整」で「フェーズ」を選択し、ENTERを押します。
「フェーズ」が表示されます。
2. ◀ または ▶ で最もちらつきやにじみのない画面に設定します。
3. 設定が完了したらENTERを押します。
設定後、画面に縦縞が現れた場合は、「縦縞を消す」に戻り、再度設定をおこなってください。
(クロック→フェーズ→ポジション)



注意点

- ・お使いのコンピュータやグラフィックスボードによっては、完全になくならないものがあります。

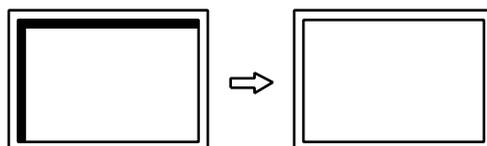
● 表示位置のずれを直す

参考

- ・液晶モニターは画素数および画素位置が固定であるため、画像の正しい表示位置は1箇所です。ポジション調整とは画像を正しい位置に移動するための調整です。

設定方法

1. 「画面調整」で「ポジション」を選択し、ENTERを押します。
「ポジション」が表示されます。
2. 画像の位置が合うように ◀, ▲, ▼, ▶ で設定します。
3. 設定が完了したらENTERを押します。



4. パターン1を閉じます。

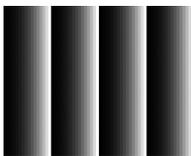
5. 色階調を調整します。

- 色階調を自動調整する

信号の出力レベルを調整し、すべての色階調（0～255）を表示できるように調整できます。

設定方法

1. 「画面調整パターン集」のパターン2を画面全体に表示します。



2. 設定メニューの「画面調整」を選択し、ENTERを押します。
3. 「画面調整」で「自動レンジ調整」を選択し、ENTERを押します。
4. ◀または▶で「はい」を選択し、ENTERを押します。
出力レンジが自動的に設定されます。
5. パターン2を閉じます。

6. 文字や線のぼやけを直します。

- 文字や線のぼやけを直す

推奨解像度以外の解像度で表示した場合、表示された画像の文字や線がぼやけて見える場合があります。

注意点

- ・表示解像度によってはスムージングの設定をする必要はありません。（スムージングアイコンを選択することはできません。）
-

設定範囲

1～5

設定方法

1. 設定メニューの「画面調整」を選択し、ENTERを押します。
2. 「画面調整」で「スムージング」を選択し、ENTERを押します。
「スムージング」が表示されます。
3. ◀または▶で設定します。
4. 設定が完了したら ENTER を押します。

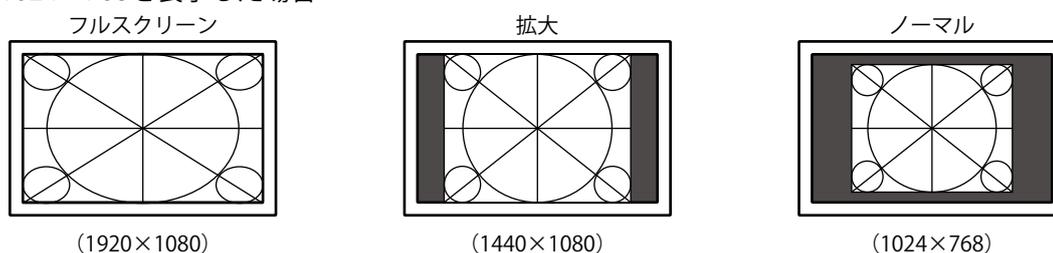
2-5. 画面サイズを切り替える

● アナログ信号 (D-Sub) / デジタル信号 (DVI-D、HDMI : PC信号) 入力時

推奨解像度以外の解像度は、自動的に画面全体に拡大されますが、「画面サイズ」機能を使用して表示サイズを切り替えることができます。

設定	機能
フルスクリーン	画面全体に画像を表示します。ただし、拡大比率は縦、横一定ではないため、表示画像に歪みが見られる場合があります。
拡大	画面全体に画像を表示します。ただし、拡大比率を縦、横一定にするため、水平、垂直のどちらかの方向に画像が表示されない部分が残る場合があります。
ノーマル	設定した解像度のままの大きさと画像が表示されます。

例：1024×768を表示した場合



設定方法

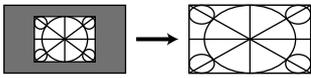
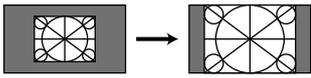
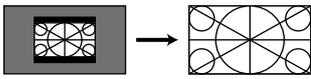
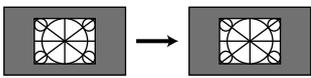
1. 設定メニューの「画面調整」を選択し、ENTERを押します。
2. 「画面調整」で「画面サイズ」を選択し、ENTERを押します。
「画面サイズ」が表示されます。
3. ◀ または ▶ で設定します。
4. 設定が完了したら ENTER を押します。

注意点

- ・「ノーマル」を選択した場合、すべての色階調を表示できないことがあります。

● デジタル信号（HDMI：ビデオ信号）入力時

「画面サイズ」機能を使用して表示サイズを切り替えることができます。

設定	機能	画面の見え方
自動	外部機器から送信されてくるアスペクト比情報※1と解像度情報に応じて、自動的に表示サイズを切り替えます。HDMI（SD信号）入力時にのみ設定できます。	
フルスクリーン	画面全体に画像を表示します。ただし、拡大比率は縦、横一定ではないため、表示画像に歪みが見られる場合があります。	
拡大	画面全体に画像を表示します。ただし、拡大比率を縦、横一定にするため、水平、垂直のどちらかの方向に画像が表示されない部分が残る場合があります。	
レターボックス	16：9のレターボックスを画面全体に表示します。レターボックス以外は映像の上下が一部切れます。HDMI（SD信号）入力時にのみ設定できます。	
ノーマル※2	入力信号のままの大きさとで画像が表示されます。	

※1 レターボックスのアスペクト比情報は自動的に判別することができません。

※2 「画面サイズ」が「ノーマル」の場合、「オーバースキャン」は「オフ」に固定されます。

設定方法

1. 設定メニューの「画面調整」を選択し、ENTERを押します。
2. 「画面調整」で「画面サイズ」を選択し、ENTERを押します。
「画面サイズ」が表示されます。
3. ◀ または ▶ で設定します。
4. 設定が完了したら ENTER を押します。

注意点

- ・「ノーマル」を選択した場合、すべての色階調を表示できないことがあります。

表示率を設定する

画像の端の歪みやノイズを隠すため、画像の周辺部を表示しないよう入力映像の表示範囲を切り替えることができます。

設定	機能
オン	入力映像の上下左右の一部を切り取った状態で画面を表示します。
オフ	入力映像のほぼすべてを画面に表示します。

設定方法

1. 設定メニューの「画面調整」を選択し、ENTERを押します。
2. 「画面調整」で「画面サイズ」を選択し、ENTERを押します。
「画面サイズ」が表示されます。
3. ▮ で「オーバースキャン」を選択します。
4. ◀ または ▶ で設定します。
5. 設定が完了したら ENTER を押します。

注意点

- ・「画面サイズ」が「ノーマル」の場合、「オーバースキャン」は「オフ」に固定されます。

第3章 モニターを設定する

3-1. 音量を調整する

● 音量を調整する

スピーカーやヘッドホンの音量を調整することができます。

設定範囲

0~30

設定方法

1. リモコンの  または  を押します。

参考

- ・音量は、HDMI入力とステレオミニジャックで共通の設定となります。

注意点

- ・ライン出力コネクタにアンプ内蔵スピーカーを接続している場合、音量は外部スピーカー側で操作してください。リモコンのボタンでは操作できません。
- ・次の条件が重なると、音量を調整しようとしたときに「現在この操作はできません。」と表示されます。
 - ヘッドホンを接続していない
 - ライン出力コネクタにアンプ内蔵スピーカーを接続している

● 音を消す

設定方法

1. リモコンの MUTE を押します。

音が一時的に消えます。

もう一度ボタンを押すか  を押して音量を上げると、音が出ます。

参考

- ・消音中に  を押すと、消音状態のままで音量を下げるすることができます。

注意点

- ・ライン出力コネクタにアンプ内蔵スピーカーを接続している場合、音量は外部スピーカー側で操作してください。モニターのリモコンでは操作できません。
- ・次の条件が重なると、消音しようとしたときに「現在この操作はできません。」と表示されます。
 - ヘッドホンを接続していない
 - ライン出力コネクタにアンプ内蔵スピーカーを接続している

3-2. HDMI信号入力時の音源を切り替える

HDMI信号入力時の音源を切り替えます。HDMI/ステレオミニジャックが選択できます。

設定方法

1. 設定メニューの「サウンド設定」を選択し、ENTERを押します。
2. 「サウンド設定」で「音源」を選択し、ENTERを押します。
「音源」が表示されます。
3.  または  で「HDMI」または「ステレオミニジャック」を選択します。
4. 設定が完了したら ENTER を押します。

参考

- HDMI信号入力の場合に変更できます。ただし、DVI-HDMI変換ケーブルを使用している場合は、「ステレオミニジャック」となり、変更できません。

3-3. 音声のレベルを調整する

入力する音声のレベルを調整します。

外部機器の平均的な音声レベルが異なるため、入力によって音量差が生じることがあります。レベルを調整することで、音量差を軽減することができます。

設定範囲

-1~1

設定方法

1. 設定メニューの「サウンド設定」を選択し、ENTERを押します。
2. 「サウンド設定」で「音声レベル」を選択し、ENTERを押します。
「音声レベル」が表示されます。
3.  または  で設定します。
4. 設定が完了したら ENTER を押します。

注意点

- この機能は、モニター本体のスピーカーおよびヘッドホンへの音声に対して働きます。

参考

- 例えば、PC1とPC2で音量差が大きくなったときは、音量が小さいほうの「音声レベル」の設定を上げると、音量差を軽減できます。

3-4. DDC/CI通信の有効/無効を設定する

DDC/CI通信の有効/無効を切り替えます（「第9章用語集」（P.56）参照）。

設定方法

1. 設定メニューの「本体設定」を選択し、ENTERを押します。
2. 「本体設定」で「DDC/CI」を選択し、ENTERを押します。
「DDC/CI」が表示されます。
3.  または  で「有効」または「無効」を選択します。
4. 設定が完了したら ENTER を押します。

3-5. 操作ボタンをロックする

本体操作ボタンでの操作をロックします。

設定方法

1. 設定メニューの「本体設定」を選択し、ENTERを押します。
2. 「本体設定」で「操作ロック」を選択し、ENTERを押します。
「操作ロック」が表示されます。
3. ◀または▶で「オン」を選択します。
4. 設定が完了したらENTERを押します。

参考

- ロックした状態でも次の操作は可能です。
 - 電源ボタンによる電源オン/オフ
- リモコンによる操作はロックされません。

3-6. EIZOロゴを表示/非表示にする

この製品の電源を入れたときに、EIZOロゴが表示されます。このロゴの表示/非表示の切り替えができません。

設定方法

1. 設定メニューの「本体設定」を選択し、ENTERを押します。
2. 「本体設定」で「起動ロゴ」を選択し、ENTERを押します。
「起動ロゴ」が表示されます。
3. ◀または▶で「オン」または「オフ」を選択します。
4. 設定が完了したらENTERを押します。

3-7. 表示言語を設定する

設定メニューやメッセージの表示言語が選択できます。

選択できる言語

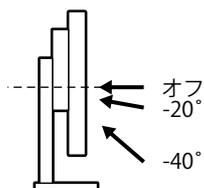
英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、スウェーデン語、日本語、中国語（簡体）、中国語（繁体）

設定方法

1. 設定メニューの「本体設定」を選択し、ENTERを押します。
2. 「本体設定」で「言語選択」を選択し、ENTERを押します。
「言語選択」が表示されます。
3. ◀または▶で言語を選択します。
4. 設定が完了したらENTERを押します。

3-8. 視聴角度を切り替える

画面を下から見るような場合に、視聴角度を調整し正面からの見え方に近づけます。



設定範囲

-40°、-20°、オフ

設定方法

1. 設定メニューの「本体設定」を選択し、ENTERを押します。
2. 「本体設定」で「Up View」を選択し、ENTERを押します。
「Up View」が表示されます。
3. ◀ または ▶ で「-40°」/「-20°」/「オフ」を選択します。
4. 設定が完了したら ENTER を押します。

注意点

- 次の場合は、設定が「オフ」になります。
 - 設定メニューの「設置方向」を「縦置き」に設定している場合
 - カラーモードで「sRGB」を選択している場合
- 視聴角度によっては、設定を切り替えることによって画面が見えにくくなる場合もあります。

3-9. HDMI信号入力時の認証方法を切り替える

ご使用の外部機器によっては機器間の認証が正常におこなわれず、画面が表示されない場合があります。その場合は、次の手順で認証方法切り替えてください。

設定方法

1. リモコンのPOWERまたは本体操作ボタンの  を押して、モニターの電源を切ります。
2. 本体操作ボタンの SIGNAL を5秒以上押します。
認証方法が切り替わり、モニターの電源が入ります。

参考

- 入力ポートや信号エラーの表示の配色によって、現在の認証方法を判断することができます。

方法	入力ポート	信号エラー
1 (初期設定)		
2		

3-10.初期設定に戻す

リセットには、カラー調整のみを初期設定に戻すカラーリセットと、すべての設定内容を初期設定に戻すオールリセットの2種類があります。

注意点

- リセット実行後は、リセット前の状態に戻すことはできません。

参考

- 初期値については、「[主な初期設定値](#)」(P.53)を参照してください。

● カラー調整値をリセットする

現在選択しているモードのカラー調整値のみを初期設定に戻します。

設定方法

- 設定メニューの「カラー調整」を選択し、ENTERを押します。
- 「カラー調整」で「カラーリセット」を選択し、ENTERを押します。
-  または  で「はい」を選択します。
- ENTERを押します。

カラー調整値が初期設定になります。

● すべての設定内容をリセットする

すべての設定内容を初期設定に戻します。

注意点

- HDMI信号入力時の認証方法（「[3-9.HDMI信号入力時の認証方法を切り替える](#)」(P.31)）および省電力モードからの復帰方法（「[省電力モード時からの復帰方法を切り替える](#)」(P.38)）は、リセットを実行しても初期設定には戻りません。

設定方法

- 設定メニューの「本体設定」を選択し、ENTERを押します。
- 「本体設定」で「リセット」を選択し、ENTERを押します。
-  または  で「はい」を選択します。
- ENTERを押します。

すべての設定内容が初期設定になります。

第4章 視認性最適化機能について

4-1. 視認性を最適化する

機能の詳細設定は「視認性最適化」メニューでおこないます。

「視認性最適化」を「オン」にすることによって、これらの設定が可能になります。

設定	機能
暗部補正	画像を分析し明るさを補正することで、暗くて見えにくい部分を見やすくすることができます。暗い部分が見えにくい映像や、明るい環境でモニターを使用するときなどに利用すると効果的です。
霧補正	霧などの影響で不鮮明に見える画像に対して、明るさや色を補正して視認性を改善します。 自動霧検出：この機能が「オン」（初期設定）の場合、画像の霧濃度に基づいて「霧補正」の強さを調整します（霧濃度が強くなるほど、補正効果が強くなります）。ただし、画像の一部に霧があるような場合、補正効果が弱くなります。その場合、この機能を「オフ」にすると補正効果が強くなります。ただし、霧がない部分が暗くなるなど、不自然な画像に見える場合があります。
輪郭補正	画像の解像感を調整します。ぼやけを改善し、鮮やかでクリアな表示にすることができます。「輪郭補正」の設定によって生じる肌色や文字色への影響は、「肌検出」、「文字検出」で補正することができます。 肌検出：画像の肌色部分を検出し、肌色が自然な見え方になるよう補正します。 文字検出：画像の文字部分を検出し、文字の色付きや文字周辺部のにじみを抑えるよう補正します。
ノイズ低減	デジタル画像の圧縮をおこなう時に発生する、ブロックノイズを低減します。

参考

- 「視認性最適化」による補正量は、表示する画像によって異なります。そのため、動画を表示している場合、シーンが切り替わる際に補正効果がゆっくりと現れることがあります。同一のシーンであっても、前のシーンの状態により補正効果が異なることがあります。

● 「視認性最適化」を設定する

設定範囲

オン、オフ

設定方法

1. リモコンの「Visibility Optimizer」のMENUを押します。
「視認性最適化」メニューが表示されます。
2.  で「視認性最適化」を選択し、ENTERを押します。
「視認性最適化」が表示されます。
3.  または  で「オン」または「オフ」を選択します。
4. 設定が完了したら ENTER を押します。

参考

- ・ 「視認性最適化」は、次の方法でも表示することができます。
 - 本体の VISIBILITY OPT. またはリモコンの「Visibility Optimizer」の ON/OFF を押します。
 - リモコンの MENU から設定する場合
 1. 設定メニューの「カラー調整」を選択し、ENTER を押します。
 2. 「カラー調整」で「詳細設定」を選択し、ENTER を押します。
 3. 「詳細設定」で「視認性最適化」を選択し、ENTER を押します。
 4. 「視認性最適化」メニューで「視認性最適化」を選択します。
- ・ 本体の VISIBILITY OPT. またはリモコンの「Visibility Optimizer」の ON/OFF で、「視認性最適化」のオン/オフの切り替えが可能です。
- ・ 「暗部補正」/「霧補正」/「輪郭補正」/「ノイズ低減」を機能させたくない場合は、「視認性最適化」の設定を「オフ」にしてください。

注意点

- ・ カラーモードで「sRGB」を選択している場合、「視認性最適化」は表示されません。本体の VISIBILITY OPT.、リモコンの「Visibility Optimizer」の MENU, ON/OFF, FOG DET を押しても「現在この操作はできません。」と表示されます。
-

● 「暗部補正」を設定する

設定範囲

1~5

設定方法

1. リモコンの「Visibility Optimizer」のMENUを押します。
「視認性最適化」メニューが表示されます。
2.  で「暗部補正」を選択し、ENTERを押します。
「暗部補正」が表示されます。
3.  または  で補正度合いを設定します。
4. 設定が完了したら ENTER を押します。

● 「霧補正」を設定する

設定範囲

1～3、オフ

設定方法

1. リモコンの「Visibility Optimizer」のMENUを押します。
「視認性最適化」メニューが表示されます。
2. で「霧補正」を選択し、ENTERを押します。
「霧補正」が表示されます。
3. またはで補正度合いを設定します。
4. 設定を完了する場合は、手順7に進んでください。
引き続き、「自動霧検出」をおこなう場合は、手順5に進んでください。
5. 「自動霧検出」を選択し、ENTERを押します。
6. またはで「オン」または「オフ」を選択します。
7. 設定が完了したらENTERを押します。

注意点

- ・「霧補正」の設定がオフの場合、「自動霧検出」の設定はできません。
-

● 「輪郭補正」を設定する

設定範囲

1～5、オフ

設定方法

1. リモコンの「Visibility Optimizer」のMENUを押します。
「視認性最適化」メニューが表示されます。
2. で「輪郭補正」を選択し、ENTERを押します。
「輪郭補正」が表示されます。
3. またはで補正度合いを設定します。
4. 設定を完了する場合は、手順7に進んでください。
引き続き、「肌検出」/「文字検出」をおこなう場合は、手順5に進んでください。
5. 補正したい項目を選択し、ENTERを押します。
それぞれの設定画面が表示されます。
6. またはで「オン」または「オフ」を選択します。
7. 設定が完了したらENTERを押します。

注意点

- ・「輪郭補正」の設定を「オフ」にすると、「肌検出」/「文字検出」が選択できなくなります。
 - ・「文字検出」は次の条件をすべて満たす場合にのみ有効です。
 - デジタル信号入力時
 - ノンインターレース信号入力時
 - 画面サイズ機能で、画面を拡大表示していない場合（「2-5.画面サイズを切り替える」(P.26)参照）
-

● 「ノイズ低減」を設定する

設定範囲

オン、オフ

設定方法

1. リモコンの「Visibility Optimizer」のMENUを押します。
「視認性最適化」メニューが表示されます。
2.  で「ノイズ低減」を選択し、ENTERを押します。
「ノイズ低減」が表示されます。
3.  または  で「オン」または「オフ」を選択します。
4. 設定が完了したら ENTER を押します。

● 設定状態を確認する

「視認性最適化」メニューの設定状態をデモ画面で確認することができます。

デモ画面への切替方法

1. 「視認性最適化」メニューの表示中に、 または  を2秒以上押します。
デモ画面に切り替わります。
 - 画面左半分：「視認性最適化」メニューの設定が反映されている状態
 - 画面右半分：「視認性最適化」メニューの設定が反映されていない状態

参考

- デモ表示中にも、「視認性最適化」メニューを表示し、それぞれの設定を変更することができます。
「Visibility Optimizer」のMENU、、 のいずれかのボタンを押すとメニューが表示されます。
 - デモ画面から通常表示に戻すには、「視認性最適化」メニューの表示中に  または  を2秒以上押してください。
-

第5章 省電力機能について

5-1. パワーセーブを設定する

● モニター

外部機器の状態と連動してモニターを省電力モードにする/しないの切り替えができます。省電力モードに移行すると画面を非表示にします。

注意点

- ・ 主電源を切るか、電源プラグを抜くことで、確実にモニター本体への電源供給は停止します。
- ・ ステレオミニジャックケーブルが接続されている場合も消費電力は変化します。

参考

- ・ 信号が入力されなくなったことを検出してから、約15秒後に省電力モードに移行します。

設定方法

1. 設定メニューの「PowerManager」を選択し、ENTERを押します。
2. 「PowerManager」で「パワーセーブ」を選択し、ENTERを押します。
「パワーセーブ」が表示されます。
3.  または  で「有効」または「無効」を選択します。
4. 設定が完了したらENTERを押します。

省電力の流れ

アナログ信号入力の場合

「VESA DPM」に準拠しています。

コンピュータの状態		モニターの状態	電源ランプ
オン		オペレーションモード	青
省電力モード	スタンバイ サスペンド オフ	省電力モード	橙
電源オフ		省電力モード	橙

デジタル信号入力の場合

外部機器がコンピュータの場合

「DVI DMPM」に準拠しています。

コンピュータの状態		モニターの状態	電源ランプ
オン		オペレーションモード	青
省電力モード		省電力モード	橙
電源オフ		省電力モード	橙

外部機器がコンピュータ以外の場合

外部機器の状態	モニターの状態	電源ランプ
電源オン	オペレーションモード	青
電源オフ	省電力モード	橙

注意点

- ・ 次の条件が重なると、「パワーセーブ」を「有効」に設定していてもモニターが省電力モードに移行しません。
 - サウンド設定の「パワーセーブ」を「サウンドオン」に設定している（「音声出力」 (P.38)）
 - 消音状態にしている（「音を消す」 (P.28)）このような場合には、消音を解除してください。

省電力モードからの復帰方法

モニターに信号が入力されると、自動的に復帰し画面が表示されます。

● 省電力モード時からの復帰方法を切り替える

次のような場合には省電力モード時からの復帰方法を切り替えてください。

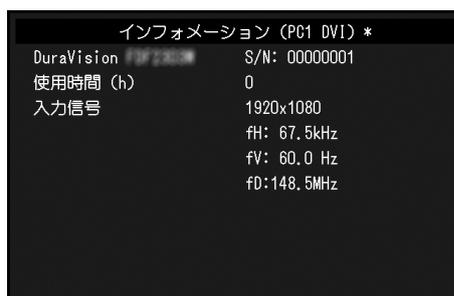
- ・ 省電力モード時からの復帰時間を短くしたいとき
- ・ モニターに信号を入力しても、画面が表示されないとき

設定方法

1. リモコンの POWER または本体操作ボタンの  を押して、モニターの電源を切ります。
2. 本体操作ボタンの MODE を5秒以上押します。
復帰方法が切り替わり、モニターの電源が入ります。

注意点

- ・ 復帰方法を切り替えると、省電力モード時の消費電力が若干増加します。
また、設定メニューの「インフォメーション」のメニュータイトルに「*」が表示されます（「8-4. モニター情報を表示する」 (P.51) 参照）。



● 音声出力

モニターの省電力モード時に、スピーカーまたはヘッドホンから音声を出力する/しないの切り替えができます。

設定方法

1. 設定メニューの「サウンド設定」を選択し、ENTER を押します。
2. 「サウンド設定」で「パワーセーブ」を選択し、ENTER を押します。
「パワーセーブ」が表示されます。
3.  または  で「サウンドオン」または「サウンドオフ」を選択します。
4. 設定が完了したら ENTER を押します。

注意点

- ・ HDMI信号入力時、音源がHDMIの場合は、モニターの省電力モード時に音声は出力されません。

5-2. 電源ランプの表示を設定する

画面表示時の電源ランプ（青）の点灯/消灯の切り替えができます。

設定方法

1. 設定メニューの「本体設定」を選択し、ENTERを押します。
2. 「本体設定」で「電源ランプ」を選択し、ENTERを押します。
「電源ランプ」が表示されます。
3. ◀または▶で「有効」または「無効」を選択します。
4. 設定が完了したらENTERを押します。

5-3. モニターの自動明るさ調整を設定する「Auto EcoView」

Auto EcoView（オートエコビュー）を使用すると、モニター下部のセンサーが周囲の明るさを検知し、明るさに応じて自動的に画面の明るさを調整します。

注意点

- Auto EcoView機能を使用する場合はセンサーをふさがないように注意してください。

設定方法

1. リモコンのEcoViewを押します。
2. 「EcoViewメニュー」で「Auto EcoView」を選択し、ENTERを押します。
「Auto EcoView」が表示されます。
3. ◀または▶で「強」/「標準」/「オフ」のいずれかを選択します。
4. 設定が完了したらENTERを押します。

参考

- Auto EcoViewの自動調整の範囲は、設定メニューの「ブライトネス」を調整すると、連動して変更されません。
- 「標準」の設定で画面が明るく感じるときに「強」にしてください。

5-4. まぶしさを軽減する「EcoView Optimizer」

EcoView Optimizer（エコビューオプティマイザー）を使用すると、周囲の明るさと入力信号の白レベルに応じて、画面の明るさを調整します。Auto EcoViewとあわせて使用することで、より快適な明るさになり、まぶしさを軽減できます。

設定方法

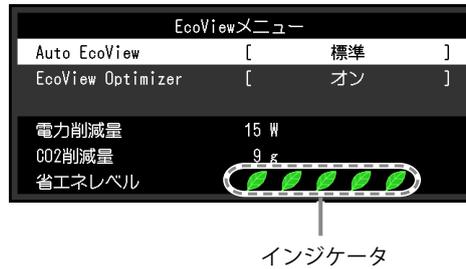
1. リモコンのEcoViewを押します。
2. 「EcoViewメニュー」で「EcoView Optimizer」を選択し、ENTERを押します。
「EcoView Optimizer」が表示されます。
3. ◀または▶で「オン」または「オフ」を選択します。
4. 設定が完了したらENTERを押します。

注意点

- EcoView Optimizer機能を使用する場合は外光センサーをふさがないように注意してください。

5-5. 省電力の度合いを表示する

EcoViewメニューで電力削減量、CO₂削減量、省エネレベルを確認できます。省エネレベルを表すインジケータが多く点灯するにつれ、省電力の度合いが高くなります。



設定方法

1. リモコンのEcoViewを押します。
「EcoViewメニュー」が表示されます。

第6章 接続する

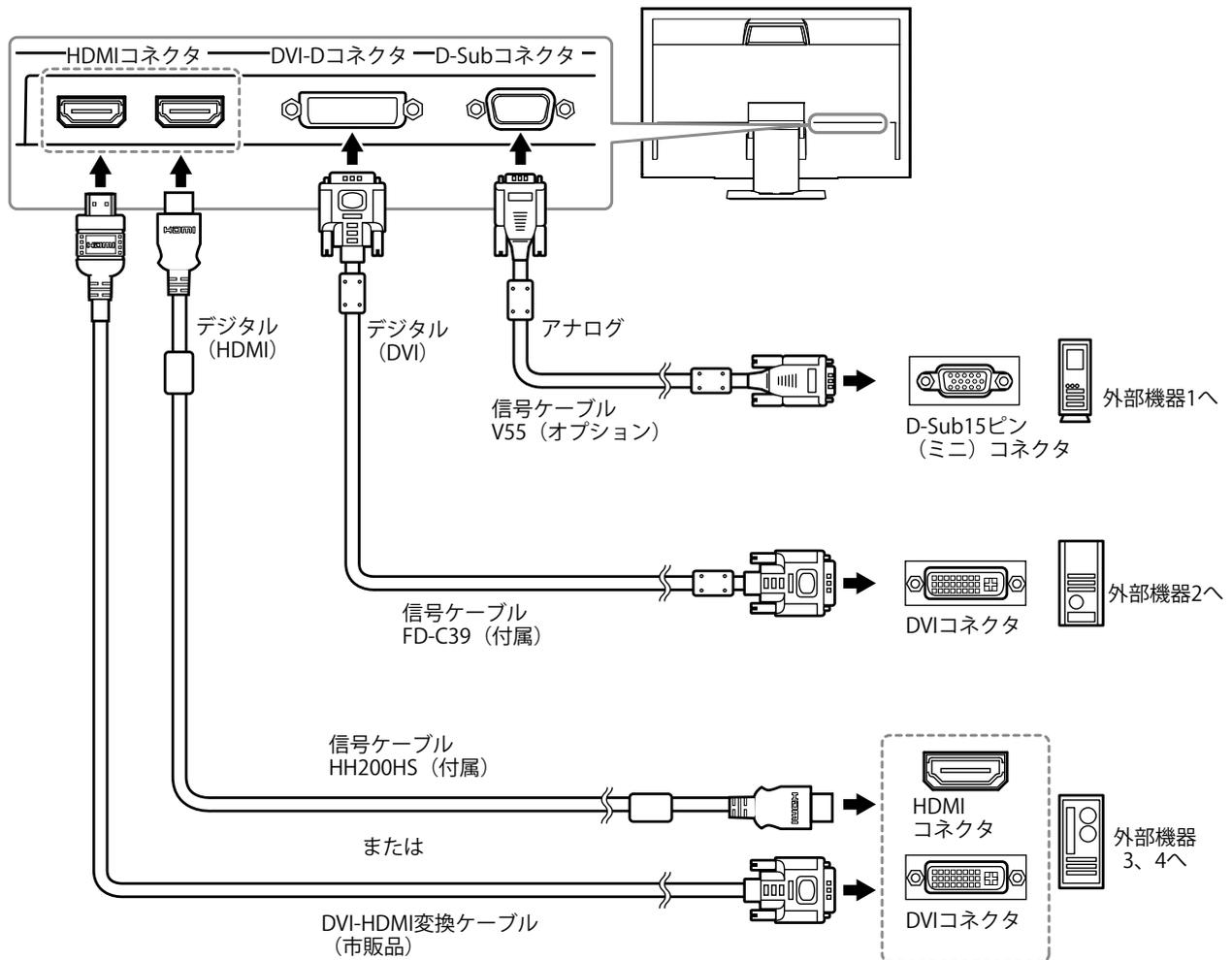
6-1. 複数の外部機器を接続する

この製品は、複数の外部機器を接続し、切り替えて表示することができます。

注意点

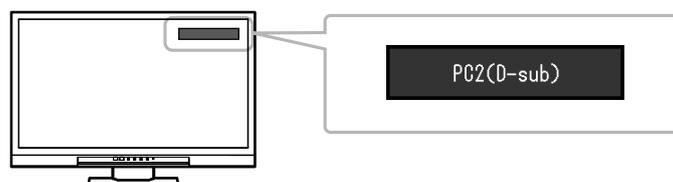
- Dual Linkケーブルは使用しないでください。

接続例



● 入力信号を切り替える

リモコンのPCまたはHDMIを押すと、入力信号が切り替わります。
画面右上に選択された入力ポート名が表示されます。



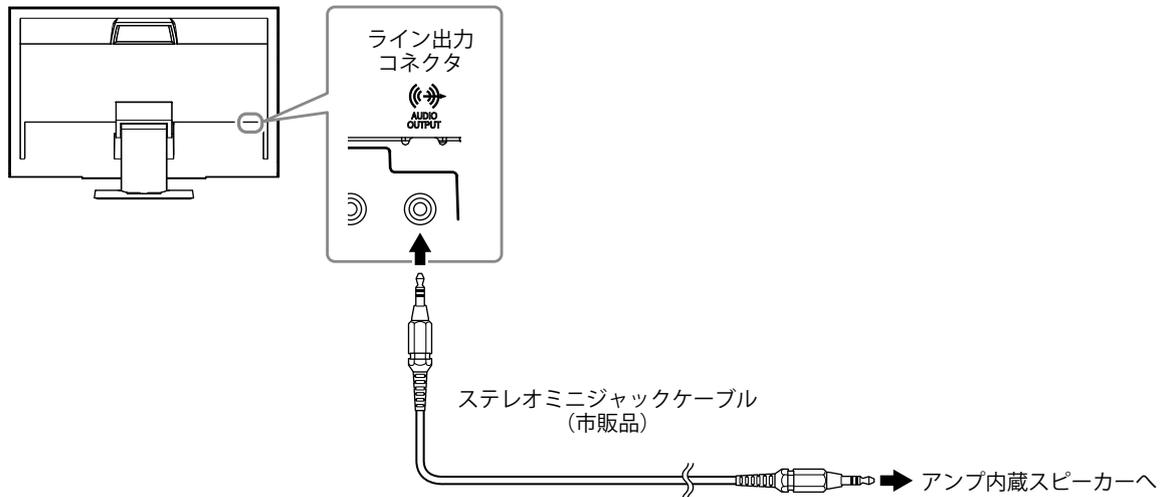
参考

- 本体操作ボタンの SIGNAL で入力を切り替えることもできます (「1-2. 各部の名称と機能」 (P.8) 参照)。

6-2. 外部スピーカーを接続する

この製品にアンプ内蔵のスピーカーを接続して、コンピュータやゲームなどの外部機器からの音声を出力することができます。

接続例



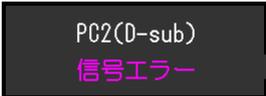
注意点

- 音量は外部スピーカー側で操作してください。モニターのリモコンや本体操作ボタンでは操作できません。
- ライン出力コネクタにアンプ内蔵スピーカーを接続すると、モニター本体のスピーカーから音声がなくなります。
- アンプ内蔵スピーカーを接続した状態で、モニターにヘッドホンを接続すると、アンプ内蔵スピーカーから音声がなくなります。

第7章 こんなときは

症状に対する処置をおこなっても解消されない場合は、販売店またはEIZOサポートにご相談ください。

7-1. 画面が表示されない場合

症状	原因と対処方法
1. 画面が表示されない <ul style="list-style-type: none">電源ランプが点灯しない	<ul style="list-style-type: none">電源コードは正しく接続されていますか。主電源を入れてください。主電源を切り、数分後にもう一度電源を入れてみてください。
<ul style="list-style-type: none">電源ランプが点灯：赤色	<ul style="list-style-type: none">リモコンのPOWERを押すか、または本体操作ボタンの  を押してみてください。
<ul style="list-style-type: none">電源ランプが点灯：青色	<ul style="list-style-type: none">設定メニューの「ブライトネス」、「コントラスト」、「ゲイン」の各調整値を上げてみてください（「詳細な調整をする」(P.16) 参照）。
<ul style="list-style-type: none">電源ランプが点灯：橙色	<ul style="list-style-type: none">信号ケーブルは正しく接続されていますか。外部機器の電源は入っていますか。マウス、キーボードを操作してみてください。入力信号を切り替えてみてください。外部機器を接続している場合は、省電力モードからの復帰方法を切り替えてみてください。いったん電源を切り、本体操作ボタンのMODEを5秒以上押すと、復帰方法が切り替わり電源が入ります（「省電力モード時からの復帰方法を切り替える」(P.38) 参照）。外部機器をHDMIポートに接続している場合は、認証方法を切り替えてみてください。いったん電源を切り、本体操作ボタンのSIGNALを5秒以上押すと、認証方法が切り替わり電源が入ります（「3-9. HDMI信号入力時の認証方法を切り替える」(P.31) 参照）。
2. 次のようなメッセージが表示される例： 	<p>この表示はモニターが正常に機能していても、信号が正しく入力されないときに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">入力されている信号が仕様範囲外であることを示す表示です。アナログ信号 (D-Sub) / デジタル信号 (DVI-D、HDMI : PC信号) 入力時は、次の対処方法も確認してみてください。<ul style="list-style-type: none">- コンピュータの設定が、この製品で表示できる解像度、垂直走査周波数になっていますか（「2-1. 対応解像度/対応フォーマット」(P.13) 参照）。- コンピュータを再起動してみてください。- グラフィックスボードのユーティリティなどで、適切な設定に変更してください。詳細はグラフィックスボードの取扱説明書を参照してください。

7-2. 画面に関する症状（デジタル・アナログ共通）

症状	原因と対処方法
1. 画面が明るすぎる/暗すぎる	<ul style="list-style-type: none"> 設定メニューの「ブライトネス」、「コントラスト」を調整してください（「詳細な調整をする」(P.16) 参照）。（液晶モニターのバックライトには、寿命があります。画面が暗くなったり、ちらついたりするようになったら、EIZOサポートにご相談ください。） 画面が明るすぎる場合は、Auto EcoView（オートエコビュー）およびEcoView Optimizer（エコビューオプティマイザー）をオンにしてみてください（「5-3. モニターの自動明るさ調整を設定する「Auto EcoView」」(P.39)、「5-4. まぶしさを軽減する「EcoView Optimizer」」(P.39) 参照）。周囲の明るさに応じて自動的に画面の明るさを調整します。
2. 文字がぼやけて見える	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータの設定が、この製品で表示できる解像度、垂直走査周波数になっていますか（「2-1. 対応解像度/対応フォーマット」(P.13) 参照）。 設定メニューの「スムージング」で調整してみてください（「文字や線のぼやけを直す」(P.25) 参照）。
3. 残像が現れる	<ul style="list-style-type: none"> この現象は液晶パネルの特性であり、固定画面で長時間使用することをできるだけ避けることをお勧めします。 長時間同じ画像を表示する場合は、コンピュータのスクリーンセーバーまたはパワーセーブ機能を使用してください。
4. 画面に緑、赤、青、白のドットが残るまたは点灯しないドットが残る	<ul style="list-style-type: none"> これらのドットが残るのは液晶パネルの特性であり、故障ではありません。
5. 画面上に干渉縞が見られる/パネルを押した跡が消えない	<ul style="list-style-type: none"> 画面全体に白い画像または黒い画像を表示してみてください。症状が解消されることがあります。
6. 画面にノイズが現れる	<ul style="list-style-type: none"> 設定メニューの「オーバードライブ」の設定を「オフ」にしてみてください（「オーバードライブを設定する」(P.21) 参照）。 HDCPの信号を入力した場合、正常な画面がすぐに表示されないことがあります。
7. 画面が白っぽい、黒っぽい	<ul style="list-style-type: none"> 設定メニューの「黒レベル」（「黒の明るさと色を調整する「黒レベル」」(P.17) 参照）、「コントラスト」（「コントラストを調整する」(P.17) 参照）で調整してみてください。

7-3. 画面に関する症状（デジタルのみ）

症状	原因と対処方法
1. 画面の色がおかしい（HDMI 入力時）	<ul style="list-style-type: none"> 設定メニューの「画面調整」-「カラースペース」で映像信号のカラースペース（色空間）を変更してみてください。
2. 画面が点滅する（HDMI 入力時）	<ul style="list-style-type: none"> HDMIケーブルのカテゴリにより伝送できる信号が異なります。ケーブルがHigh Speedに対応しているか確認してください。
3. 画面が白っぽい、黒っぽい（HDMI 入力時）	<ul style="list-style-type: none"> 設定メニューの「画面調整」-「カラースペース」で調整してみてください。

7-4. 画面に関する症状（アナログのみ）

症状	原因と対処方法
<p>1. 画像がずれている</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 設定メニューの「ポジション」で画像の位置を合わせてください（「表示位置のずれを直す」（P.24）参照）。 グラフィックスボードのユーティリティなどに画像の位置を変える機能があれば、その機能を使用して調整してください。
<p>2. 画面に縦線が出ている/画面の一部がちらついている</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 設定メニューの「クロック」で調整してみてください（「縦縞を消す」（P.23）参照）。
<p>3. 画面全体がちらつく、にじむように見える</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 設定メニューの「フェーズ」で調整してみてください（「ちらつきやにじみをとる」（P.24）参照）。

7-5. その他の症状

症状	原因と対処方法
1. 設定メニューにおいて、「画面調整」の「スムージング」が選択できない	<ul style="list-style-type: none"> 次の表示解像度や設定の場合は、スムージングを選択することができません。 <ul style="list-style-type: none"> - 解像度が1920×1080の場合 - 画面サイズが「ノーマル」の場合
2. 自動調整機能が動作しない	<ul style="list-style-type: none"> 自動調整機能はデジタル信号入力時には動作しません。 この機能はWindowsなど表示可能エリア全体に画像が表示されている場合に正しく動作します。コマンドプロンプトのような画面の一部にしか画像が表示されていない場合や、壁紙など背景を黒で使用している場合には正しく動作しません。 一部のグラフィックスボードで正しく動作しない場合があります。
3. 音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> ステレオミニジャックケーブルは正しく接続されていますか。 外部機器および音声を再生しているソフトウェアの設定を確認してください。 HDMI入力時は外部機器および設定メニューの「音源」の設定を確認してみてください（「3-2. HDMI信号入力時の音源を切り替える」(P.29) 参照）。 モニター本体のスピーカーの場合 <ul style="list-style-type: none"> - ライン出力コネクタにアンプ内蔵スピーカーを接続していませんか。 - 音量が「0」になっていませんか。 ヘッドホンの場合 <ul style="list-style-type: none"> - 音量が「0」になっていませんか。 ライン出力コネクタに接続したアンプ内蔵スピーカーの場合 <ul style="list-style-type: none"> - ヘッドホンを接続していませんか。
4. ライン出力コネクタに接続したアンプ内蔵スピーカーの音量が調整できない	<ul style="list-style-type: none"> この製品では外部スピーカーの音量を調整することはできません。音量は外部スピーカー側で調整してください。
5. 省電力モードに移行しない	<ul style="list-style-type: none"> 次の条件が重なると、「パワーセーブ」を「有効」に設定していてもモニターが省電力モードに移行しません。 <ul style="list-style-type: none"> - サウンド設定の「パワーセーブ」を「サウンドオン」に設定している（「音声出力」(P.38)） - 消音状態にしている（「音を消す」(P.28)） このような場合には、消音を解除してください。
6. 「現在この操作はできません。」と表示される	<ul style="list-style-type: none"> この表示は次のような場合に表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> - リモコンの  /  を押したとき： ライン出力コネクタに接続したアンプ内蔵スピーカーの音量を調整することはできません（「3-1. 音量を調整する」(P.28) 参照）。 - 本体の VISIBILITY OPT.、またはリモコンの「Visibility Optimizer」の MENU, ON/OFF, FOG DET *1 を押したとき： カラーモードで「sRGB」を選択している場合、視認性最適化機能を使用することはできません（「第4章 視認性最適化機能について」(P.33) 参照）。

※1 「視認性最適化」または「霧検出」がオフの場合、FOG DET の設定はできません。

第8章 ご参考に

8-1. オプションアーム取付方法

この製品はスタンド部分を取り外すことによって、オプションアーム（またはオプションスタンド）に取り付けることが可能になります。対応しているオプションアーム（またはオプションスタンド）については、当社のWebサイトを参照してください。 <http://www.eizo.co.jp>

注意点

- 取り付けの際は、アームまたはスタンドの取扱説明書の指示に従ってください。
- 他社製のアームまたはスタンドを使用する場合は、次の点をアームまたはスタンドメーカーにご確認の上、VESA規格準拠のものを選択してください。取り付けにはこの製品に付属のM4×12mmねじをご使用ください。
 - 取付部のねじ穴間隔：100mm×100mm
 - 許容質量：モニター本体の質量（スタンドなし）とケーブルなどの装着物の総質量に耐えられること
- アームまたはスタンドを使用する場合は、次の範囲（チルト角）で使用してください。
 - 上45° 下45°（横表示時）
- ケーブル類は、アームまたはスタンドを取り付けた後に接続してください。
- モニターおよびアームまたはスタンドは重量があります。落としたりするとけがや故障の原因になります。
- 定期的にねじの締め付けを確認してください。締め付けが不十分な場合、モニターが外れ、けがや故障の原因になります。

取付方法

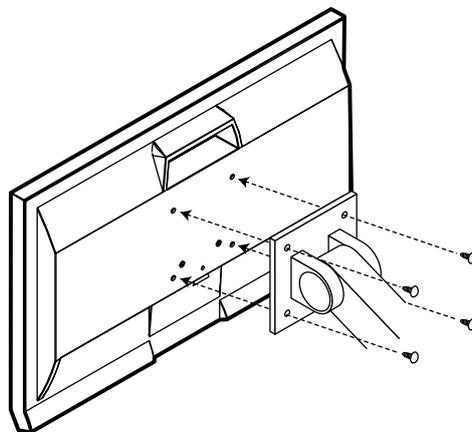
1. パネル面が傷つかないように、安定した場所に柔らかい布などを敷いた上に、パネル面を下に向けて置きます。

2. スタンドを取り外します。

別途ドライバを準備ください。ドライバを使って、本体部分とスタンドを固定しているねじ3箇所を取り外します。

3. モニターにアーム（またはスタンド）を取り付けます。

アームまたはスタンドの取扱説明書で指定のねじを使って取り付けます。

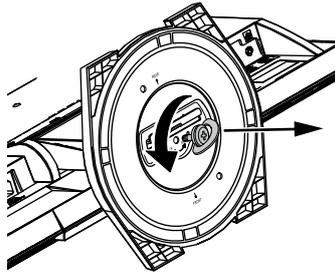


8-2. スタンドベースの取外方法/取付方法

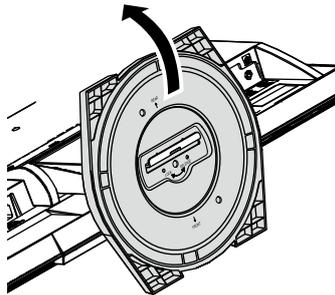
取外方法

セットアップ時に取り付けしたスタンドベースは、次の手順で取り外すことができます。

1. パネル面が傷つかないように、安定した場所に柔らかい布などを敷いた上に、パネル面を下に向けて置きます。
2. スタンドベースを固定しているねじを「RELEASE」の方向に回して外します。



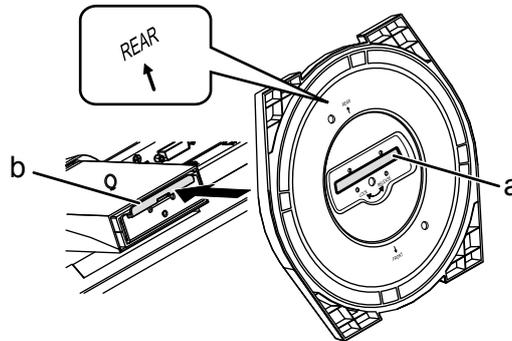
3. スタンドベースを上を持ち上げるようにして外します。



取付方法

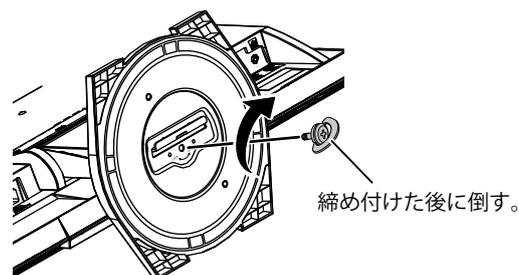
いったん取り外したスタンドベースは、次の手順で再度モニター本体に取り付けることができます。

1. パネル面が傷つかないように、安定した場所に柔らかい布などを敷いた上に、パネル面を下に向けて置きます。
2. スタンドベースを図のように「REAR」の文字を上にして持ち、スタンドベースの穴 (a) にモニター本体底面のツメ (b) をはめ込みます。



3. 付属のねじを「LOCK」の方向に回して、スタンドベースを固定します。

ねじは最後までしっかりと締め付けてください。



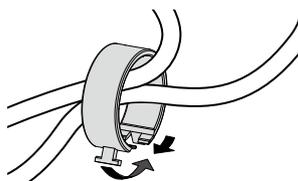
4. モニターを安定した場所に置きます。

8-3. ケーブルホルダーの取付方法/取外方法

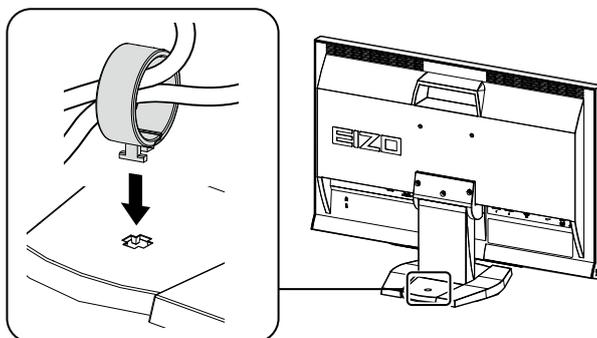
この製品にはケーブルホルダーが付属しています。モニターに接続したケーブル類を配線する際に利用してください。

取付方法

1. ケーブルホルダーにケーブルを通します。
2. ケーブルホルダーの下部を締めます。

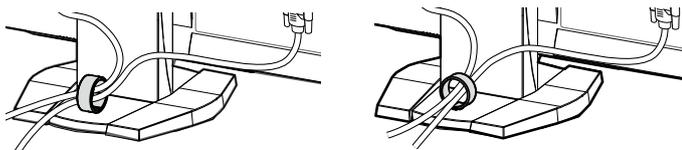


3. その状態のまま、スタンドベースに差し込みます。



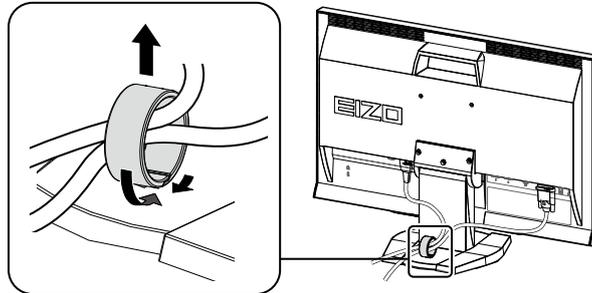
参考

- ケーブルホルダーは縦、横のどちらの方向にも差し込むことができます。ケーブルの配線状況に応じて、ケーブルホルダーの向きを変えてください。



取外方法

1. ケーブルホルダーの下部を締めます。
2. その状態のまま、スタンドベースからケーブルホルダーをまっすぐ上に抜き取ります。



8-4. モニター情報を表示する

製品名、製造番号、使用時間、解像度、入力信号を表示します。

設定方法

1. 設定メニューの「インフォメーション」を選択し、ENTER を押します。
「インフォメーション」が表示されます。

注意点

- ・工場での検査のため、最初にモニターの電源を入れたときに使用時間が「0」ではない場合があります。

8-5. 仕様

液晶パネル	種類	TN (アンチグレア)
	バックライト	LED
	サイズ	58cm (23.0) 型 (可視域対角58.4cm)
	解像度	1920ドット×1080ライン
	表示面積 (横×縦)	509.7mm×286.7mm
	画素ピッチ	0.2655mm
	表示色	8bitカラー : 1,677万色
	視野角 (水平/垂直、標準値)	170°/160°
	応答速度 (標準値)	10ms (黒→白→黒) 4ms (中間階調域) *1 (オーバードライブ設定: 普通)
	コントラスト比	1000 : 1 (コントラスト拡張設定「強」時 5000 : 1)
映像信号	入力端子	DVI-D (HDCP対応) ×1 D-Sub15ピン (ミニ) ×1 HDMI TypeA*2 (HDCP対応) ×2
	デジタル走査周波数 (水平/垂直)	DVI : 31kHz~68kHz / 59Hz~61Hz (VGA TEXT時: 69Hz~71Hz) HDMI : 15kHz~68kHz / 49Hz~61Hz フレーム同期モード対応: 49Hz~61Hz
	アナログ走査周波数 (水平/垂直)	31kHz~81kHz / 55Hz~76Hz
	ドットクロック (最大)	148.5MHz
	同期信号	セパレート、TTL、正/負極性
音声	音声入力フォーマット	HDMI : 2chリニアPCM (32 kHz / 44.1 kHz / 48 kHz)
	スピーカー	0.5W+0.5W
	ヘッドホン	2mW+2mW
	入力端子	ライン : ステレオミニジャック×1 HDMI TypeA*2×2 (映像信号と共用)
	出力端子	ヘッドホン : ステレオミニジャック×1 ライン : ステレオミニジャック×1
電源	電源入力	AC100V±10%、50/60Hz、0.7A-0.45A
	最大消費電力	38W以下
	省電力時消費電力	0.4W以下 (HDMI 1系統入力時、ステレオミニジャックケーブル非接続時、「サウンド」-「パワーセーブ」: 「サウンドオフ」設定時)
	待機時消費電力	0.3W以下
機構	外観寸法	545mm×390mm~450mm×200mm (幅×高さ×奥行) (チルト角度0°時)
	外観寸法 (モニター部)	545mm×348.5mm×54mm (幅×高さ×奥行)
	質量	約5.2kg
	質量 (モニター部)	約3.9kg
	昇降	60mm
	チルト	上25°、下0°
	スウィーベル	344°

動作環境条件	温度	5°C~35°C
	湿度	20%~80% (R.H.,結露なきこと)
	気圧	540hPa~1060hPa
輸送/保存環境条件	温度	-20°C~60°C
	湿度	10%~90% (R.H.,結露なきこと)
	気圧	200hPa~1060hPa

※1 中間階調域の応答速度の平均値です。

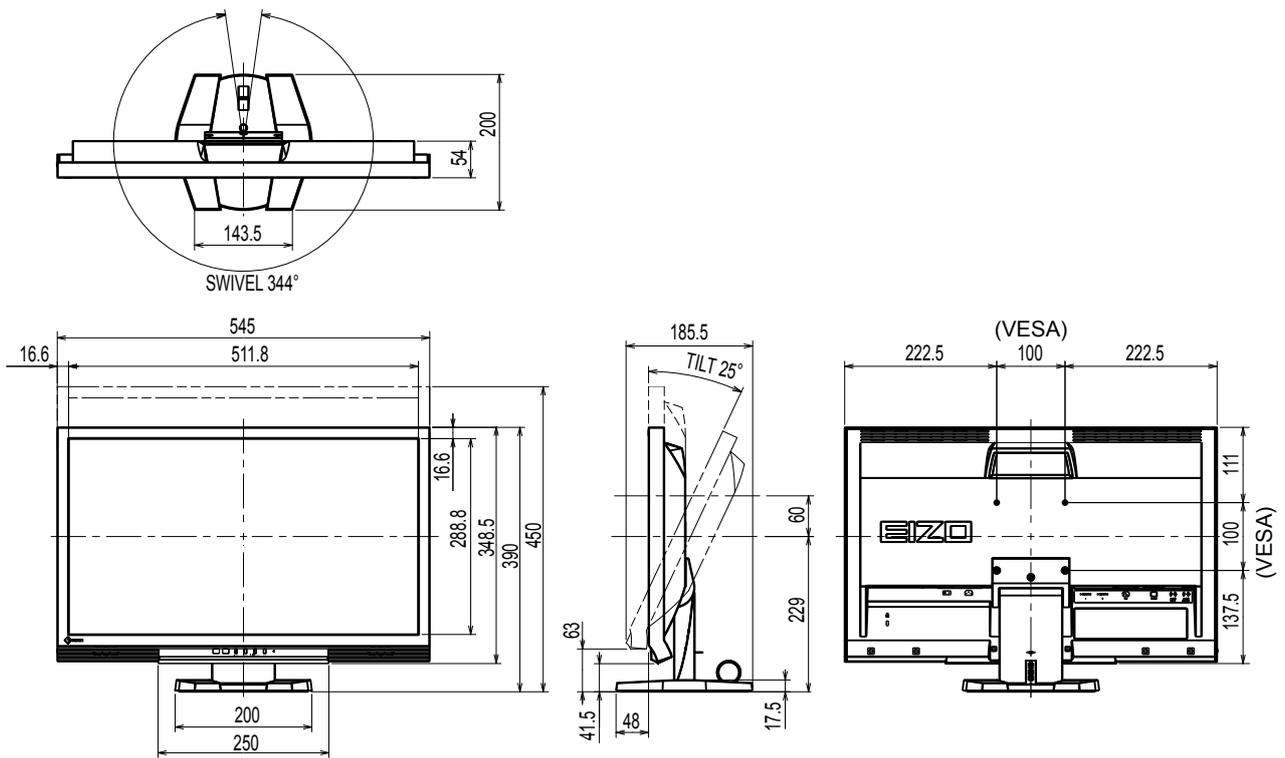
※2 HDMI CEC機能（相互制御機能）には対応していません。

主な初期設定値

カラーモード	User1
画面サイズ	D-Sub、DVI-D入力時：フルスクリーン HDMI（PC信号/HD信号）入力時：フルスクリーン HDMI（SD信号）入力時：自動
視認性最適化	オン
Auto EcoView（オートエコビュー）	オフ
EcoView Optimizer（エコビューオプティマイザー）	オフ
スムージング	3
音声レベル	0
サウンド設定 - パワーセーブ	サウンド オフ
PowerManager - パワーセーブ	有効
DDC/CI	無効
操作ロック	オフ
起動ロゴ	オン
電源ランプ	有効
言語選択	日本語
Up View	オフ

外観寸法

単位：mm



オプション品

クリーニングキット	EIZO「ScreenCleaner」
信号ケーブル (D-Sub15ピン (ミニ))	V55

オプション品に関する最新情報は、当社のWebサイトを参照してください。

<http://www.eizo.co.jp>

8-6. プリセットタイミング

工場出荷時に設定されているアナログ信号のタイミングは次のとおりです。

注意点

- 接続されるコンピュータの種類により表示位置などがずれ、設定メニューで画面の調整が必要になる場合があります。
- 一覧表に記載されている以外の信号を入力した場合は、設定メニューで画面の調整をおこなってください。ただし、調整をおこなっても画面を正しく表示できない場合があります。
- インターレースの信号は、設定メニューで調整をおこなっても画面を正しく表示することができません。

解像度	周波数		
	ドットクロック：MHz	水平走査：kHz	垂直走査：Hz
640 × 480	25.18	31.47	59.94
720 × 400	28.32	31.47	70.09
640 × 480	31.50	37.50	75.00
800 × 600	40.00	37.88	60.32
800 × 600	49.50	46.88	75.00
1024 × 768	65.00	48.36	60.00
1024 × 768	78.75	60.02	75.03
1280 × 720	74.25	45.00	60.00
1280 × 960	108.00	60.00	60.00
1280 × 1024	108.00	63.98	60.02
1280 × 1024	135.00	79.98	75.03
1680 × 1050	146.25	65.29	59.95
1680 × 1050	119.00	64.67	59.88
1920 × 1080	148.50	67.50	60.00

第9章 用語集

DDC/CI (Display Data Channel / Command Interface)

VESAによって標準化された、コンピュータとモニター間で設定情報などを双方向にやりとりするための国際規格です。

DVI (Digital Visual Interface)

デジタルインターフェース規格の一つです。コンピュータ内部のデジタルデータを損失なくダイレクトに伝送できます。

伝送方式にTMDS、コネクタにDVIコネクタを採用しています。デジタル信号入力のみ対応のDVI-Dコネクタと、デジタル/アナログ信号入力可能なDVI-Iコネクタがあります。

DVI DMPM (DVI Digital Monitor Power Management)

デジタルインターフェースの省電力機能のことです。モニターのパワー状態についてはモニターオン（オペレーションモード）とアクティブオフ（省電力モード）が必須となっています。

HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection)

映像や音楽などのデジタルコンテンツの保護を目的に開発された、信号の暗号化方式。

DVIコネクタやHDMIコネクタなどを経由して送信されるデジタルコンテンツを出力側で暗号化し入力側で復号化することによりコンテンツを安全に伝送できます。

出力側と入力側の双方の機器がHDCP対応していないと、コンテンツを再生できない仕組みになっています。

HDMI (High-Definition Multimedia Interface)

HDMIとは、コンピュータとモニターを接続するときのインターフェース規格の一つである「DVI」をベースにして、家電やAV機器向けに発展させたデジタルインターフェース規格です。映像や音声、制御信号を圧縮することなく、1本のケーブルで伝送することができます。

sRGB (Standard RGB)

周辺機器間（モニター、プリンタ、デジタルカメラ、スキャナなど）の「色再現性、色空間」を統一する目的で成立した国際基準のことです。インターネット用の簡易的な色合わせの手段として、インターネットの送り手と受け手の色を近い色で表現できます。

TMDS (Transition Minimized Differential Signaling)

デジタルインターフェースにおける、信号伝送方式の一つです。

VESA DPM (Video Electronics Standards Association - Display Power Management)

VESAでは、コンピュータ用モニターの省エネルギー化を実現するため、コンピュータ（グラフィックスボード）側からの信号の標準化をおこなっています。DPMはコンピュータとモニター間の信号の状態について定義しています。

色温度

白色の色合いを数値的に表したものを色温度といい、K：Kelvin（ケルビン）で表します。炎の温度と同様に、画面は温度が低いと赤っぽく表示され、高いと青っぽく表示されます。

5000K：やや赤みがかった白色

6500K：昼光色と呼ばれる白色

9300K：やや青みがかった白色

オーバードライブ

液晶画素の動作時にかける電位差を大きくすることによって、応答速度を向上させる技術で、一般的に液晶テレビなどに用いられています。動画内に頻繁に現れる中間階調域の応答速度を向上させることにより、残像の少ない、くっきりとした立体感豊かな表示を提供します。

解像度

液晶パネルは決められた大きさの画素を敷き詰めて、その画素を光らせて画像を表示させています。この機種の場合は横1920個、縦1080個の画素がそれぞれ敷き詰められています。このため、1920×1080の解像度であれば、画像は画面全体（1対1）に表示されます。

カラースペース

色を規定し、表現するための方法。輝度（Y）と青の色差（U）、赤の色差（V）により表現するYUV、赤（R）、緑（G）、青（B）の3色の階調により表現するRGBなどがあります。

ガンマ

一般に、モニターは入力信号のレベルに対して非直線的に輝度が増加していき、これをガンマ特性と呼んでいます。画面はガンマ値が低いとコントラストが弱く、ガンマ値が高いとコントラストが強くなります。

クロック

アナログ信号入力方式のモニターにおいて、アナログ信号をデジタル信号に変換して画像を表示する際に、使用しているグラフィックスボードのドットクロックと同じ周波数のクロックを再生する必要があります。このクロックの値を調整することをクロック調整といい、クロックの値が正常でない場合は画面上に縦縞が現れます。

ゲイン

赤、緑、青それぞれの色の値を調整するものです。液晶モニターではパネルのカラーフィルタに光を通して色を表示しています。赤、緑、青は光の3原色であり、画面上に表示されるすべての色は3色の組み合わせによって構成されます。3色のフィルタに通す光の強さ（量）をそれぞれ調整することによって、色調を変化させることができます。

フェーズ

アナログ信号をデジタル信号に変換する際のサンプリングタイミングのことです。このタイミングを調整することをフェーズ調整といいます。クロックを正しく調整した後でフェーズ調整をおこなうことをお勧めします。

レンジ調整

信号の出力レベルを調整し、すべての色階調を表示できるように調整します。カラー調整をおこなう前にはレンジ調整をおこなうことをお勧めします。

付録

商標

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia InterfaceおよびHDMIロゴは、HDMI Licensing, LLCの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

VESAはVideo Electronics Standards Associationの登録商標です。

Acrobat、Adobe、Adobe AIR、PhotoshopはAdobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の米国およびその他の国における登録商標です。

AMD Athlon、AMD OpteronはAdvanced Micro Devices, Inc.の商標です。

Apple、ColorSync、eMac、iBook、iMac、iPad、Mac、MacBook、Macintosh、Mac OS、PowerBook、QuickTimeはApple Inc.の登録商標です。

ColorMunki、Eye-One、X-RiteはX-Rite Incorporatedの米国および/またはその他の国における登録商標または商標です。

ColorVision、ColorVision Spyder2はDataColor Holding AGの米国における登録商標です。

Spyder3、Spyder4はDataColor Holding AGの商標です。

ENERGY STARは米国環境保護庁の米国およびその他の国における登録商標です。

GRACoL、IDEAllianceはInternational Digital Enterprise Allianceの登録商標です。

Japan Color、ジャパンカラーは一般社団法人日本印刷産業機械工業会および一般社団法人日本印刷学会の日本登録商標です。

JMPAカラーは社団法人日本雑誌協会の日本登録商標です。

LinuxはLinus Torvalds氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

NECは日本電気株式会社の登録商標です。

PC-9801、PC-9821は日本電気株式会社の商標です。

NextWindowはNextWindow Ltd.の商標です。

Intel、Intel Core、Pentium、Thunderboltは米国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。

PowerPCはInternational Business Machines Corporationの登録商標です。

PlayStation、PS3、PSP、プレイステーションは株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

RealPlayerはRealNetworks, Inc.の登録商標です。

Red HatはRed Hat, Inc.の登録商標です。

TouchWareは3M Touch Systems, Inc.の商標です。

Windows、Windows Media、Windows Vista、SQL Server、Xbox 360、Internet Explorerは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

YouTubeはGoogle Inc.の登録商標です。

FirefoxはMozilla Foundationの登録商標です。

Kensington、MicroSaverはACCO Brands Corporationの登録商標です。

EIZO、EIZOロゴ、ColorEdge、DuraVision、FlexScan、FORIS、RadiCS、RadiForce、RadiNET、Raptor、ScreenManagerはEIZO株式会社の日本およびその他の国における登録商標です。

ColorNavigator、EcoView NET、EIZO EasyPIX、EIZO ScreenSlicer、i・Sound、Screen Administrator、UniColor Pro、Re/VuelはEIZO株式会社の商標です。

C@T-one、FlexViewはEIZO株式会社の日本登録商標です。

その他の各会社名、各製品名は各社の商標または登録商標です。

ライセンス/著作権

この製品上で表示される文字には、株式会社リコーが制作したビットマップフォント丸ゴシックボールドを使用しています。

VCCI

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

また、製品の付属品（ケーブルを含む）や当社が指定するオプション品を使用しない場合、VCCIの技術基準に適合できない恐れがあります。

VCCI-B

その他規格

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格を満足しております。しかし、規格の基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

この装置は、高調波電流を抑制する日本工業規格JIS C 61000-3-2に適合しております。

关于电子信息产品污染控制标识



本标识根据「电子信息产品污染控制管理办法」，适用于在中华人民共和国销售的电子信息产品。标识中央的数字为环保使用期限的年数。只要您遵守该产品相关的安全及使用注意事项，在自制造日起算的年限内，不会产生对环境污染或人体及财产的影响。上述标识粘贴在机器背面。

• 有毒有害物质或元素的名称及含量

部件名称	有毒有害物质或元素					
	铅 (Pb)	汞 (Hg)	镉 (Cd)	六价铬 (Cr(VI))	多溴联苯 (PBB)	多溴二苯醚 (PBDE)
印刷电路板	×	○	○	○	○	○
机箱	○	○	○	○	○	○
液晶显示器	×	○	○	○	○	○
其他	×	○	○	○	○	○

○：表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在 SJ/T 11363-2006 规定的限量要求以下。
 ×：表示该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出 SJ/T 11363-2006 规定的限量要求。
 (企业可在此处,根据实际情况对上表中打“×”的技术原因进行进一步说明)

アフターサービス

この製品のサポートに関してご不明な場合は、EIZOサポートネットワーク株式会社（EIZOサポート）にお問い合わせください。EIZOサポート一覧は別紙の「お客様ご相談窓口のご案内」に記載してあります。

保証書について

- この製品の保証書はセットアップガイド（裏面）にあります。必要事項をご記入の上、購入日が分かる書類（レシートなど）とともに保管してください。
- 当社では、この製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製品の製造終了後、最低7年間保有しています。補修用性能部品の最低保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、EIZOサポートにご相談ください。

修理を依頼される時

- 保証期間中の場合
保証書の規定に従い、EIZOサポートにて修理または交換をさせていただきます。お買い上げの販売店、またはEIZOサポートにご連絡ください。
- 保証期間を過ぎている場合
お買い上げの販売店、またはEIZOサポートにご相談ください。修理範囲（サービス内容）、修理費用の目安、修理期間、修理手続きなどを説明いたします。

修理を依頼される場合にお知らせいただきたい内容

- お名前、ご連絡先の住所、電話番号/FAX番号
- お買い上げ年月日、販売店名
- 製品名、製造番号
（製造番号は、本体の背面部のラベル上に表示されている8桁の番号です。
例）S/N 12345678）
- 使用環境（コンピュータ/グラフィックスボード/OS、システムのバージョン/表示解像度など）
- 故障または異常の内容（できるだけ詳細に）

修理について

- 修理の際に当社の品質基準に達した再生部品を使用することがありますのであらかじめご了承ください。

製品回収、リサイクルシステムについて

パソコン及びパソコン用モニターは「資源有効利用促進法」の指定再資源化製品に指定されており、メーカーは自主回収及び再資源化に取り組むことが求められています。

当社製品は、一般社団法人「パソコン3R推進協会」が回収させていただきます。

回収を希望されるお客様は当社のWebサイトよりお申し込みください。

(<http://www.eizo.co.jp>)

